



巨大不明生物を題材とした邦画公開
に対する若手特撮愛好家を主軸とした
多角的方面からの考察

Vol.2
Oct.2016

レクシズマー レポート



【特集】

『シン・ゴジラ』大ヒット記念号

「コメントは多い方が有り難い」
『シン・ゴジラ』感想集
私は好きに書いた。君らも好きに書け

「はいはい、わかってますよ」
東宝特撮聖地巡礼黙示録 2016
秋の特別篇

「あのっ！...この熱線データを見てください」
みえる！わかる！怪獣映画なんでも
データベース『シン・ゴジラ』最速版

「(このネタで)もう少し様子を見る」
ゴジラvsヘヴィメタル EXTRA

著・編集 ■ R.E.X.I.S.M.R
(Research Establishment of Xeromorph in Sleep Monger River)

まえがき

去る7月23日に発行した『レクシズマーレポートVol.1』ですが、おかげさまでDL数・アクセス数ともに我々の予想を上回るものになりました。

それもこれも、『シン・ゴジラ』をひっさげて堂々の帰還を果たした我らが怪獣王の恩恵に預かったものだ、ひしひしと感じているところです。

『シン・ゴジラ』公開から約2か月ほどが経過した今の状況については情報過多の波がようやくひと段落つき始めた、といったところでしょうか。熱狂の夏が終わり、怪獣ファンの皆様もやや落ち着きを取り戻した頃かと思えます。

そこで、今回お送りする『レクシズマーレポートVol.2』は、我々怪獣ファンによる、2016年の夏の激闘の記録といった趣でそれぞれが『シン・ゴジラ』にどう向き合い、何を感じたか自由に表現してもらおう場としてご提供することにしました。

レクシズマーメンバーによる『シン・ゴジラ』関連のコンテンツだけでなく今回はメンバー以外の関西の若手怪獣ファンによるTwitterなどでは記しきれない生の声（感想集）も特別掲載しました。いずれもお楽しみいただければ幸いです。

2016年10月

R.E.X.I.S.M.R

目次

- Report 1. 『シン・ゴジラ感想集 ～私は好きに書いた。君らも好きに書け～』
(文：空埜一樹、H川、ジョン、yugo、有真文吉、ゆうや、Yuusuke、吉田圭一、
ガムムス=ガメラの息子、シン・岩塊提督、皇サトコ)
- Report 2. 『実録！東宝特撮聖地巡礼黙示録！』（文：ぶなしめじ）
- Report 3. 『みえる！わかる！怪獣映画なんでもデータベース ～シン・ゴジラ 最速版～』
(文：帯津さんの後輩)
- Report 4. 『ゴジラvsヘヴィメタル EXTRA』（文：真田ゼウス）

Report 1

『シン・ゴジラ感想集

～私は好きに書いた。君らも好きに書け～』

文：

空埜一樹、H川、ジョン、yugo、有真文吉、ゆうや、Yuusuke
吉田圭一、ガメムス=ガメラの息子、シン・岩塊提督、皇サトコ

シン・ゴジラに関する駄文的考察(空埜一樹)

シン・ゴジラに関する駄文的考察

文：空埜一樹(@sorano009)

どうも、空埜一樹です。

普段は業界の片隅でライトノベルなるジャンルの小説を書いている人間ですが、この度、勿体なくも機会を頂き、「シン・ゴジラ」についての文章を綴りたいと思います。

ただ、初めに言っておきたいのですが、ぼくはここ二年の間に怪獣・特撮映画を観るようになった、今風に言うところの「にわか」というやつです。

その為、幼い頃から巨大生物に慣れ親しんできた方々からすると、この文はいかにも浅識な奴が書いた、極めて稚拙なものだと思われるかもしれません。

それでもオッケーという貴重な方のみ、読み進めて頂ければ幸いです。

前置が長くなりましたが、シン・ゴジラについてです。

初回こそ、

「なんか重々しい会議が始まっ……わー！ 事前情報と違うやつが！ わー！ 立って、えー！ 進化して、えええええ大きくなってああ見たことがあるやつにえええ矢口！ あああ泉、巨災対、わああああ放射光線えええこんなに勝てるのかよわああああ、ああああ矢口、あああ、電車が爆発、あああ、矢口、矢口ー！」

と圧倒されっぱなしだった上に、後半から矢口のことしか言っていない気もしましたが、二回目を観てようやく冷静に色々考えることが出来ました。

まず、二年を通して様々な怪獣映画を観てきましたが、一つ言えることは、怪獣は生き物であるということです。

生き物は、人間もそうですが、大体の場合、感情と欲望に支配されています。

怒り、悲しみ、憎しみ、喜び、恐怖、食事、繁殖、優越、庇護――。

子どもを人間にさらわれ、その復讐の為に街を破壊するものがあれば、侵略の為に他の生命体を利用して進化するものもいます。あるいは誰かを護る為に敵と戦うものもあれば、単純に住処を壊され、憤怒するものもいます。

しかし、それぞれ行動に差異があっても、生き物である以上、動機は割合シンプルで、バリエーションもそれほどあるわけではありません。

ですが、却ってシン・ゴジラはどうでしょうか。

まずぼくが抱いたのは、違和感でした。

シン・ゴジラに出てくるゴジラ（以下シンゴジ）には、そういった感情や欲望が見えてこないのです。

ただ街を蹂躪し、向かってくる者を破壊し、殲滅するだけ。

そこにシンゴジ固有の心というべきものはありません。

はっきり言って、彼（あるいは彼女）が何をしたいのか、どんな目的で東京の都心を目指していたのか、そもそもなぜ海から上がってこようと思ったのか、全く理解できませんでした。

これを描写が足りないと評する人がいるかもしれません。あるいは、今回の作品に関してはゴジラより寧ろ対抗する人間側の方に尺を割り振っているのだから、そっちはあえて描かなかったのだ、と思う方もいるかもしれません。

それは両方とも当たっていると思います。

ですが、ぼくは寧ろ『描かなかったこと』が今回のシンゴジそのものを表しているのではないかと感じました。

シンゴジが放射熱戦を吐き出し、東京を地獄に変えた時、ぼくは観ていて相当の絶望感を味わいました。

それは、多分、途方もない天災を目にした時と同じ気持ちだったように思います。

地震や台風には感情も欲望もありません。ただ、突然に現れて、何かを奪い去り、またいずこかへ消えていく。

かつて人はそれらを神の御業と考えたそうですが、シンゴジにも同じことが言えるんじゃないでしょうか。

ぼくにとって、シンゴジは神であり、災害の具象化だったように見えました。

だからこそ理不尽で抗い難く、途方もない怖く。

だからこそ屈するわけにはいかず、最後まで諦めずに戦いたくなる。

地震や台風によって完膚なきまでにボロボロになっても、少しずつ日本が再生してきたように。

そういった意味で今回のゴジラは、旧作のゴジラのようにありながら旧作のゴジラではなく、生き物のようであり、生き物でない――まさしくタイトル通り「新・ゴジラ」だというに相応しい存在だったと言えるでしょう。

これだけ多くの「ゴジラ」が居る中で、また新しい形の「呉爾羅」を創り上げたというのは、本当に素晴らしいことだと思いました。

……と、ちょっと長くなりましたが、以上にて締めということで。

なんだか偉そうな感じになってしまったかもしれませんが、往年のファンの方々におかれましては、広い心でご容赦願えると幸いです。

シン・ゴジラ覚書 オマージュの示唆、あるいは私的フラッシュバック

Memorandum Suggestion of homage or Private flashback

文：H川(@480hit)

——その僕の主人は予想しない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、不忠実な者たちと同じ目に遭わせる。主人の思いを知らず何もしないで、あるいは主人の思いどおりにしなかった僕は、ひどく鞭打たれる。
——（ルカによる福音書 12章）

序文

本誌の第1作目、冒頭に記載されている「R.E.X.I.S.M.Rここに発足す～まえがきにかえて～」を読んだ時に、私に衝撃が走った。

『そして期を待っていたかのように、我々の主であり、真の怪獣の王が、その厳かな眠りから目覚めつつあることか
明らかになってからは、(中略)
それぞれが思い思いの方法で、王の帰還をいまかいまかと待ち続けている。』

私は特撮作品も見るが、あえていうなら漫画やアニメ、エンタメ映画が好きな人間という程度で、特撮に傾倒しているわけではなかった。

ことにゴジラに関しての鑑賞歴など、スペースゴジラ、デストロイアを子供時代に劇場に観に行き、(鑑賞者プレゼントが実家のどこかにあるかもしれない)、中学生以降見返した覚えはない。

そのため、このまえがきにあるようにゴジラを主人、王、あるいは神として崇め、従者、信徒として過ごす信仰心厚き姿勢に心打たれた次第である。

今回お声掛け頂いた際に、心配したことは王の僕たる方々と私では知識が、熱量の質感が異なるということであるが、幸いにも「好きなものを書いてくれ」と肩の荷を降ろして頂いたので、これより全く私見ではあるが『シン・ゴジラ』への思いを書き記しておきたい。

私の話の筋は主に、シン・ゴジラを鑑賞中にゴジラ以外の作品を思い起こすシーンをピックアップすること、そして各作品とシン・ゴジラの共通点、相違点を見ていく中で私なりの「シン・ゴジラの良さ」を紹介できればと思う。

その良さとは

「真摯に映画を作っている点」

「現代の文脈でゴジラを描いている点」

「自分たちの好きなものを詰め込んだ上でエンターテインメントになっている点」

の3つである。

目次

序論

1.対平成ガメラ

2.対エヴァ

3.対劇場版パトレイバー

結論

各章では存分にネタバレを發揮するため、各作品を未鑑賞の方はご留意頂きたい。

また、シン・ゴジラ内のオマージュを指摘するというよりは、筆者個人の脳内にフラッシュバックしたことを記していることを了承頂きたい。

1.対平成ガメラ

私の特撮歴を紹介しておく、VSシリーズを何となく幼少期に見ており、スペースゴジラ、デストロイアは劇場公開時に一度だけ鑑賞。ミレニアムシリーズは見ておらず、アメリカ版GODZILLAは2作とも、鑑賞済み。

シン・ゴジラを見るにあたって初代ゴジラを見たという程度。

ガメラに関しては平成三部作を劇場で鑑賞し、折に触れ何度か見返している。

はっきりいえば平成ガメラ寄りの人間である。

平成ガメラの良さを言えば、物語前半のリアリティある描写とサスペンスを提示する演出の妙であると私は考える。ガメラ、ギャオスといった怪獣が、現実の日本に現れたらどうなるのか、ということが丁寧に描かれている。丁寧に描かれているということはつまり、リアリティをもって描かれているということである。

ギャオスが襲った島の調査の為に、鳥類学者が現場に呼ばれる。そこには夥しい量の糞があり、その中から捕食された人間のメガネが出てくる。

これは害獣被害のような現実の延長線にある演出である。

あるいは鎖で電柱に繋がれたままの犬がいなくなるという例も挙げられる。

実際にギャオスに食べられるシーンよりも、空恐ろしいものを感じる。

次第に力を増すギャオス。

鳥類学者たちの調査によって、ギャオスの染色体の構造がわかり、今後一体だけでも繁殖する可能性も示唆され、科学的見地からの不安感を募らせる。

この恐怖感、現実との地続き感に引き込まれながら、ストーリーは進行する。

また、警察、自衛隊の登場も特殊兵器の使用ではなく、あくまで巨大生物が存在する事態に現実的に対処する様子がリアリティを鑑賞者に与える。

光に弱いギャオスの特性を掴み、通常装備の銃によってギャオスを殺すなど、この地続き感によって鑑賞者は、ギャオスが鉄柵を超音波カッターで切断しても、「嘘っぽい」と冷めた目に戻らずに、特撮映画へと浸っていけると思う。

このギャオスの生態を解明していくことがサスペンスとして機能し、次はどうなるのだろうか？というドキドキハラハラという感覚を鑑賞者に与え、作品へののめり込みを誘導している。

シン・ゴジラを見てみると、リアリティある画と、巨大生物に対する政府の「本当らしい」対応を前半にこれでもかと詰め込んでいる。

結論を出すどころか話が全く噛み合わない有識者会議や、総理の記者会見の失言(巨大生物の上陸はない、と言い切って直ぐに撤回せざるをえない事態になってしまうなど)は、ブラックユーモアでありながら、現実との地続き感を演出している。(個人的には記者会見で脇に手話通訳の女性がいることに良さを覚える)

在野の民間レベルからの目線と、政府機構の中での目線の差はあれど、シン・ゴジラは平成ガメラで培われた「怪獣が現れる」という事態に対する真実味のある反応を描いている。

ガメラを彷彿させるという項目として、楽観視を続ける政府のミーティングシーンで彼に触れないわけにはいかない。手塚とおる(ガメラ3倉田真也役)がいる。今回は面倒臭いキャラとして抜群の存在感を發揮し、前半で退場するという扱いても平成ガメラを見ていた私にはとても好感が持てた。

シン・ゴジラの序盤で描かれている、楽観視を続ける政府の様子はリアリティと笑いの提供を任されている。では、シン・ゴジラにおけるサスペンスはどうか？

話を進める原動力であるサスペンスが、シン・ゴジラには素晴らしい方法で用意されている。冒頭の無人ボートと、遺書のようなメモの謎である。

——私は好きにした。君らも好きにしろ——

この謎が鑑賞者に対して、サスペンスを提供し、話を引っ張っていく。(この謎は後述のパトレイバーの項目で詳しく紹介する。)

そして個人的に一番物語を動かしていると思われる演出が、第2形態のブサイクさである。第2形態を劇場で初めて見たとき、私は正直「なんだこの作り物の怪獣は！？まさかこの気持ち悪いやつとゴジラが戦うんじゃないだろうな！？」という心配をしてしまった。

しかしこの効果は絶大で、一旦映像作品へののめり込みから引き離されて、鑑賞者は作品に対する不安感が募る。この映画大丈夫か？と。作品中の不安感ではなく、作品外からのメタ的な不安感である。不安になればなるほど、先が気になるというもので、これが逆に続きを見たくなる原動力となっている。

そして一旦作品への没入を解消しておきながら、それを一気に引き戻す演出が用意されていた。それは、このブサイクな巨大生物が、実は進化してゴジラになるという演出である。ここで不安に感じていた気持ちは、驚きによって反転する。「これからどうなってしまうのだろうか」というのめり込みを促す。

この演出は「ゴジラは急激に進化する」という約束事を鑑賞者に植え付けること、そして「このゴジラは更に進化するのではないか」という恐怖感の創出、そして先述の「メタ的な不安による物語の原動力」になっている。

私見ではあるが、序盤に弱そうな造形を見せておくことで、後半に出てくる第4形態の重厚感、絶望感との落差を演出しているとも思う。

第2形態は画面的にもすこし稚拙なような気がするが、個人的にはヤシオリ作戦に出てくる無人在来線爆弾という、同じように稚拙な、いや、スタッフの好きなものを映画にぶち込んだ極みのようなシーンへの前振りだとすら思う。

第二形態を見せておくことで、この映画はこのレベルの特撮もありますよ、と共通認識を取り付けるような役目もあったのではないか。

おかげで新幹線大爆発攻撃も冷めた目ではなくワクワクしながら観られたのである。(それは素晴らしい音楽のチョイスのお陰でもある)

話が少し逸れたが、簡単にまとめると平成ガメラにおける序盤のリアリティの追求、サスペンスの提示のうまさについて、シン・ゴジラの演出は更にそれを推し進め、十二分に発揮されていると考える。

次に、中盤のタバ作戦は、ガメラ2におけるレギオンの東京進行に対して、利根川を最終防衛ラインとした自衛隊の総力戦を思い出す。

ガメラ2においてレギオンに対して行った防衛戦を思い返せば、自衛隊の総攻撃によって巻き起こる爆炎に迫力があつた。そしてその後、ガメラを信じた自衛隊が「レギオンの頭部に集中砲火」という指示を出すシーンも胸が熱くなる。

シン・ゴジラの防衛戦線はどうか。私としてはある意味前代未聞の出来映えであつた。兵器の運用を威力の小さいものから順に始めていくという描写に驚いた。普通なら接敵すれば、ミサイル、砲撃、誘導弾の雨あられではないだろうか。実際の戦闘でこういう戦い方をするのは分からないが、私としてはタバ作戦のシーンを見たとき、新しい描写に出会つたという高揚感があつた。

また、このシーンで特に感じたことは10式戦車の砲塔の視点で映されるカメラワークの迫力である。単なる旋回の映像に、凄まじい興奮を覚えた。ガメラと話は変わるが、洋画のフューリーや、アニメガールズ&パンツァーで戦車戦に見慣れていたつもりであつたが、シン・ゴジラのタバ作戦で使われたカメラワークには圧倒された。

さて、平成ガメラにおいてガメラは地球(ガイア)の守護者であったが、今作でゴジラは破壊神として降臨している。

シン・ゴジラが最初の熱線を吐き、東京を火の海に変えるシーンに、私はガメラ3の大火に包まれる京都を思い出した。

だが、その意味するところは真逆で、ガメラにおいて炎は死闘の様子を表していた。ガメラ3のイリス最終決戦、レギオン2のウルティメイト・プラズマ、ギャオスとの大気圏を突破するほどの空中決戦の果てに破壊したコンビナート…。

どれもガメラが地球を守るためにどれほど戦っているかを表すような炎だと私は思う。炎が上がるほど、ガメラの戦いは苛烈さを増しているのだと。

これに対して、シン・ゴジラが作り出す炎は、圧倒的な破壊力と、成す術のない人間側に絶望を叩きこんでくるかのようだった。

東京が炎に包まれた時、もはや復興は不可能に思えた。あの矢口が冷静さを失うほどの惨劇であった。主人公の矢口が傍観者から当事者への意識の転換によって、我を忘れて駆け出すシーンにふさわしい説得力のある映像であった。

その後熱線を吐き活動を停止したゴジラは、仙台で活動停止したガメラを彷彿させた。(ガメラ2)
この時ガメラには人々の祈る気持ちが集まり、奇跡的に復活する。

シン・ゴジラは違う。

人々にとって、ゴジラは世界を破壊する時限爆弾である。

矢口たちは破壊神が目覚めるまでの僅かな時間に、祈りではなく、自分たちの手で日本に奇跡を起こそうとするわけである。

平成ガメラとシン・ゴジラを比べれば、良いところを取り入れ、更に推し進めている点と、守護者と破壊者という役割の違いから、描かれ方が異なるという印象を受けた。

次は破壊する者としてのゴジラを皮切りに、エヴァンゲリオンに話を移したい。

2. 対エヴァ

庵野秀明がエヴァンゲリオンを撮っていることについては今更説明するまでもない。

エヴァは、1995年にTVシリーズが始まり、その人気は社会現象となる一方、内容理解については非常に物議を醸した作品でもある。

エヴァは14歳の少年碇シンジが、エヴァンゲリオンという人型兵器に搭乗し、侵略者である使徒と呼ばれる怪物たちから第三新東京市を守るという話である。その裏で様々な策謀が繰り広げられ、また人間の内面的な描写、宗教的なモチーフを使っており、作品が難解になっている点多々ある。

はじめに庵野作品に出てくる使徒と、今回のシン・ゴジラと対比する。

まず思い起こされるのは、正八面体の使徒、ラミエルである。

ラミエルは攻撃に荷電粒子砲を使用し、劇中では紫色のビームとして描かれている。山を半分吹き飛ばす非常に強力なビームである。

一方、ゴジラが発する熱線は温度が高まり収束する内に紫色に変わり超高温のビームとなって街を焼き尽くす。新劇場版で描かれた荷電粒子砲による攻撃シーンを彷彿とさせた。

また、ゴジラが停止中に無人偵察機が撃ち落とされるというシーンも、ラミエルの性質であった自分の領域に侵入してくるミサイルをビームで迎撃するという攻撃方法を思い出す。

しかし、背中や尾の先端からも熱線を出す、という演出は、シン・ゴジラ独自のものであり、作中に観客の度肝を抜く素晴らしい能力だと思う。

その他にも、

——『総力戦だ。厚木と入間も全部上げろ！』
『出し惜しみは無しだ！何としてでも目標をつぶせ！』
『戦車大隊は壊滅。誘導兵器も砲爆撃もまるで効果なし、か』——
(エヴァ第1話、かませ犬的ポジションの司令官たちのセリフより)

と言わせたいかのようなゴジラの鉄壁さは、エヴァ本編で最初に戦うことになるサキエル戦を思い出す。あるいはエヴァシリーズ屈指の強敵、絶対の拒絶タイプといわれるゼルエル(ウルトラマンのゼットンがモチーフ?)を思い出させる。現行戦力ではまるで歯が立たない。

使徒は同時に一体しか攻めてこないが、各個体はそれぞれの経験を後続の使徒にフィードバックすることができ、後半に出てくる使徒は主人公たちの弱点を突く、あるいはそれまでに失敗した方法とは全く別のコンセプトで侵攻してくるという設定がある。

これはゴジラの皮膚を破りダメージを与えた米軍の地中貫通爆撃に対して進化した結果、熱戦や自動迎撃能力を獲得するという流れに活かされていると私は考える。さらに、今後使用する兵器は一撃でゴジラを殲滅させなければ、ゴジラはその対策を備えてくるという恐怖の演出でもある。

シン・ゴジラはまさに何体もの使徒の上に位置する、破壊の神として君臨しているように思われてならない。

また、シン・ゴジラのヤシオリ作戦も、エヴァを思い出す。

先に出たラミエルとの戦闘において実行された超長距離狙撃作戦はヤシマ作戦と呼称された。由来は平家物語の逸話、屋島の戦いに因む。

源氏的那須与一が、平家の舟に掲げた扇の的を遠くの浅瀬から射抜いた話と、敵の自動攻撃の範囲外から陽電子砲で狙撃する作戦をなぞらえて命名された。

ヤシオリ作戦は同じように故事から名づけられている。スサノオノミコトがヤマタノオロチ討伐の際に、何度も醸造した強い酒を飲ませて、酔って眠ったところ退治した。その時に作った酒がヤシオリ(八塩折)である。当然、血液凝固剤を経口投与する様子をイメージしてヤシオリ作戦と名づけられた。

また、ヤマタノオロチの容姿は、腹は血が滲み赤くただれていると描写されている。シン・ゴジラのデザインコンセプトには、生物らしくない、ガン細胞などがイメージにあるということだが、矢口は第4形態の姿から、ヤマタノオロチと関連付けたのだろうか?これも上手い。

ちなみに一説によるとヤマタノオロチは出雲の斐伊川の氾濫を神話的に描いたとも考えられている。荒ぶる神が自然災害の化身という話はよくあるが、ここでも災害を象徴するという点でシン・ゴジラとヤマタノオロチとの親和性を感じ取れる。

また、斐伊川の近くに、気になる言い伝えのある神社が存在する。その神社の名前は八口神社。ヤシオリの酒に酔ってヤマタノオロチが寝ていたところ、スサノオがこの神社のある場所から矢を放ち、射止めたという言われである。だがこの神社は、出雲風土記にはこう記されている。「矢口」神社と。
オロチ=ゴジラを倒す者として、ここから矢口蘭堂の名字が取られたのではないかと妄想する。
(個人的にはこの神社の名前は、八つの頭を持つオロチに八つの酒を置いたために八口かと思ったが・・・)

話を戻そう。

ヤシオリ作戦の命名の仕方だけでなく、ヤシオリ作戦の内容からも、ヤシマ作戦を彷彿させる。

ヤシマ作戦は、陽電子砲の発射に必要な膨大な電力を、日本中からかき集めて攻撃に使用する。そのため、エヴァにおいては、作戦名は日本全土という意味の古語「八洲(八島)」からも取られている。(新劇場版参照)

ヤシマ作戦において現場指揮官が「日本中のエネルギー、あなたに預けるわ。」と主人公に語りかけるシーンがある。ヤシオリ作戦もまた、血液凝固剤を生産するために、日本中の製薬、化学製品の会社をはじめとした、製造ライン、研究機関に協力を仰ぐ。その様子は詳細には描かれていないが、日本が一丸となって事態に当たるという展開は、エヴァもシン・ゴジラも共通して胸を打つものがある。

私は巨災対のテーマ曲とともに工場の製造ラインを進んでいくカメラワークが大好きで、特に興奮する。さらに今回は様々な国のスパコンで分析を進めるという世界規模の助力を得ているという点でより大きな協力体制となっている。

また、エヴァといえば魅力的なキャラクターが多数生み出されているが、その中でも綾波レイという存在は大きい。

クールで、人付き合いが苦手、自分で決めたことは曲げないし、会話は事務的なやり取りが多いが、根は優しい。物語の中で人との触れ合いで少しずつ心を開いていく。

そんな綾波レイを思い出さずにはいられないキャラがシン・ゴジラにはいる。環境省自然環境局野生生物課長補佐、尾頭ヒロミである。冷静で、動じず、自分の思ったことを物怖じせず言うのける。人と馴れ合わないが、最後の最後、放射性物質の半減期が短いことが分かるとなんとも言えない表情で、それでも顔を綻ばせるという可愛い所もある。(半減期についてはご都合主義と言われがちだが、その指摘はナンセンスだ。私は尾頭さんにときめかせるためにこの設定は必要であると主張したい)

個人的には巨災対の本部が避難区域となり、メンバーたちが慌てふためいているところ、ノートパソコンをしっかりと脇に持ち颯爽と移動する様が性格を表す素晴らしい演技をさせていると思う。更に彼女の名前が尾頭（尾が頭）というのも、シン・ゴジラの設定（尾にも口があり熱線を放つ）の前フリ、あるいはシン・ゴジラを生態的に解明するものとしての役割を与えられているのではないかと勘繰ってしまう。

最後に、作品のテーマに触れておく。エヴァのテーマに入る前に、庵野秀明の考え方を少し見てみたい。庵野秀明はエヴァンゲリオンTVシリーズ終了後、総集編と最終回2話をリメイク(TVシリーズとは別エンディング)した劇場版エヴァを作っている。(いわゆる旧劇場版)

この作製の途中、ニュータイプが企画した対談でこう語っている。

———僕らの世代(60年代前半生まれ)の共通体験はテレビや漫画しかないと思うんですよ。それはしょうがないと思います。僕らより前には、全共闘や、お上に逆らってひどい目にあって、四畳半に引っ込んでフォークを歌う世代というのはありましたよね。その前の世代には、圧倒的な共通体験として戦争と戦後があると思うんですよ。あの何も無い焼け野原から、日本を復興させるんだと言う。そういうパワーって、すごいですよね。だけど、僕らには"魔法の箱"の中にしか語るものがない。———

(ニュータイプECommission 97年7月号～)

ここでいう魔法の箱とは、テレビのことだ。そしてそれは特撮、中でもウルトラシリーズである。初代ウルトラマンをイメージしてエヴァンゲリオンのデザインがやせ形で、前傾であるというのも庵野秀明の意向だ。

庵野秀明が語る中で、リアリティのある経験というのはないとのことだったが、シン・ゴジラを撮るにあたって、描かざるを得ないものとして、東日本の大震災という経験があると思う。それが下敷きとなっていることは同時代の我々は各所で感じられるだろう。

また、この対談の中では興味深いことに次のような言葉もある。

———外敵と戦って、初めて日本は戦争に負けたんです。2000年以上の歴史の中で、初めてですよ、日本がなくなったのは。だけど、その初めての経験でも、日本は耐えたわけですよ、滅びずに。日本と言う国は運がいいと思うんですけど、それだけじゃなくって、お上が変わればそれにコロっとついていくと言う、日本人の性質もあると思いますね。僕らは、それらの話を直に聞いているから、戦後の価値観の変化と言うのが、知識として擦り込まれてますね。僕らにとってこのことが大きかったと思うんですよ。やはり確かなものなんかどこにもないんだと言う確信を得ましたからね———

シン・ゴジラの作中でも、日本のトップの入れ替わりを揶揄するセリフが出てくるが、今の日本首脳の入替わりの早さを揶揄した以上に、この戦中戦後のことも指摘しているのではないかと想像する。トップが変わってもついていく、そしてトップが変わっても現場は最善を尽くすというのが、ある意味日本的な性格だというイメージはシン・ゴジラ内の描写でも明らかである。

その後、庵野秀明はアイアンキングに描かれる敵組織が過激派の雰囲気そのままという話に触れながら、『良質なんです、当時の作品は。つくっている人がすごくまじめにやっていたと思います』と述べている。

シン・ゴジラはまさに真摯な映画だと思う。

ゴジラという虚構を描くために、細部に渡ってリアリティを追求している。
あるいは過去の特撮、日本映画、何よりゴジラという作品への尊敬の念からオマージュを多数取り込んでいる。

そして、物語の風呂敷を一応は畳むことで、エンターテインメントとして作品を観客へ送り出している(エヴァQを見た私としては今作は収集の付かない終わりかもしれないと心配したものだ)

まじめにゴジラという作品に取り組んでいる、そしてそれが映像から伝わってくるというのが、シン・ゴジラが面白い理由だと思う。

さて、エヴァのテーマである。

エヴァTVシリーズ終了後のインタビューで、庵野秀明は『エヴァはことばというより叫びに近い』(ニュータイプ97年9月号)という話が出ていた。

あるいは『10年、20年、30年とあいまいな閉塞感の中で生きてきた僕らは、自分を叫ぶしかなかった』、一方で(アニメファンは)『現実に戻れ』という言葉が物議を醸した。その理由は以下に語られている。

———確かなものは何もないんですよ、アニメファンって自分の中に。だからアニメに救いを求めたりする。(中略)町へ出ていろいろな人に接触しないと。なぜ、僕にそれが言えるかということ、僕自身、何も自分の中にないことに気づいているからです。25年間ずっとアニメファンをやってきて、35歳になってやっと気づくんだから、僕も相当バカなんですけどね(笑)———

何も自分の中にない、だからこそ、孤独に堪え、傷付きながらも人とのつながりを求めなくては行けない...そういう作品を叫びとして作り上げた。

そこから10年近く経って、新たに始動した新劇場版エヴァンゲリヨンの場合はどうか。新劇場版一作目、序のパンフレットの冒頭に記載された、庵野秀明のコメントから引用する。

———われわれは再び、何を作ろうとしているのか?———

この書き出しからも、シン・ゴジラとの繋がりを感じる。

———「エヴァンゲリオン」という作品は、様々な願いで作られています。そこには自分の正直な気分と言うものをフィルムに定着させたいという願い。アニメーション映像が持っているイメージの具現化、表現の多様さ、原始的な感情に触れる、本来の面白さを1人でも多くの人に伝えたいという願い。疲弊しつつある日本のアニメーションを、未来へとつなげたいという願い。蔓延する閉塞感を打破したいという願い。現実世界で生きていく心の強さを持ち続けたいという願い。今一度、これらの願いを具現化したいという願い。———

新劇場版のメッセージ、あるいは込められた願いとは、まさしくこの言葉の通りだと思う。

美しい背景、迫力あるカメラワークと、パワーを増した戦闘シーン。そして繊細だったキャラクターたちは、次第に生きていく強さを身につけ成長していく。まさにアニメが持つ力を存分に発揮する作品に仕上がっている。

私は、フィクションが見たものを救う物語であって欲しいと願う。
例えば映画館に入って、非日常の物語に触れて、日常の辛いことや悲しいことを離れ、作品に没頭する。あるいは、登場人物たちに自分を投影し、自分というものをより深く、親しく感じる。そして、映画館を出た時に、ほんの少しだけ前向きになれる、一服の清涼剤、あるいはカンフル剤、そういうものであって欲しいと願う。

そしてまさにエヴァは、等身大の悩みを抱える少年が、自分の心と向かい合いながら他者との触れ合いへ進むという、現実に生きる人間の力になる作品だと思う。

コメント後半に庵野秀明自身が書いている。

——エヴァは繰り返しの物語です。主人公が何度も同じ目に合いながら、ひたすら立ち上がっていく話です。わずかでも前に進もうとする、意思の話です。——

アニメと特撮という差はあれど、まさにシン・ゴジラのテーマそのものである。

その気持ちは既にシン・ゴジラ制作時のコメントに表れている。

パンフレット冒頭に記されているその書き出しは、こうだ。

——われわれは、何を作ろうとしているのか。——

そして語られる特撮への愛と危機感。

意味するところは新劇場版エヴァの頃と変わらない。

そして、シン・ゴジラに込められたメッセージも、エヴァと変わりはないと思う。

蔓延する閉塞感を打破し、現実世界で生きていく心の強さを持ち続けたい、"そうでありたい"という願いなのだ。それは庵野秀明自身がそう願っているのであろう。

本作を核批判だ、政権批判だ、理想論だ、または戦意高揚映画だという意見も耳にする。実際に映画を見た人がそう言うなら、その人の中ではそうなのかもしれない。

だが、私の目から見たシン・ゴジラは、実際に今の日本に蔓延する閉塞感に対し、真摯に、今の人々の心に訴えかける、生きていく心の強さを"持ちたい"という願いのこもった、得難い傑作映画である。

ハリウッドの資本に対し、日本映画は勝てないという閉塞感。

ゴジラという作品が今の時代に受け入れられていないという特撮世界の閉塞感。

震災に苦しんでいる現実、核の危機に晒されている現実。

あるいは国家への信頼、安全への信頼が揺らいでいる現実。

これを打破するフィクションの力が、シン・ゴジラにはあることを私は確信している。そこには理想もある、嘘もある。だが、それ以上に訴えかけるものがこの作品の根底にしっかりと横たわっているのである。

シン・ゴジラはテーマ設定、その描き方も真摯であるが、エンターテインメントとしても優秀である。その点を、劇場版パトレイバーと比較しながら確認していきたい。

3.対劇場版パトレイバー

ここでいう劇場版パトレイバーとは、監督押井守、脚本伊藤和典の1作目と2作目を取り扱う。

シン・ゴジラのストーリーは、劇場版パトレイバーとの共通点が非常に多い。
まず挙げられるのは物語の冒頭、ゴジラ覚醒の犯人と目される牧博士の自殺と遺言である。

劇場版パトレイバーも、冒頭に一人の男が海に飛び込み自殺している。

名を帆柱瑛一(ほばえいいち)という。

パトレイバーは現実の世界にロボット(=レイバー)が実際にいたら...というコンセプトの作品であり、帆柱が仕掛けた犯罪は東京中のレイバーのOSに暴走プログラムを組み込むというもの。彼は計画の成功を確信して自殺した。OSを解除する手立てがなくなり、主人公たち特車2課(パトカーならぬパトレイバーを運用する警察の一部署)は暴走のトリガーとなる建物の破壊を遂行する。

黒幕ではあるが、物語冒頭ですでに死んでおり、作品の中で主人公たちと直接関わることは一切無い。

牧博士は犯行声明のようなものとして『私は好きにした。君らも好きにしろ』という言葉を残している。

帆柱にも同じように、聖書の引用から犯行声明のようなものが残されている。

——エホバ天をたれてくだりたもう。御足のもと暗きことはななだし。——

そこから主人公達は有名な一節に思い至る。

——エホバくだりて、かの人々の建つる街と塔を見たまえり。いざ我らくだり、かしこにて彼らの言葉を乱し、互いに言葉を通ずることを得ざらしめん。ゆえにその名は、バベルと呼ぼる——(創世記11章)

帆柱の目的は、本作から推察するにレイバー暴走による東京という都市の破壊。
そして自らの痕跡をあえて残すことで、東京に住む人間を試すことであった。動機は捜査の結果から推測するに、自分の生まれ育った所が都市開発の地上げにあい、生活や思い出を壊されながらも、急激な建設計画の立ち上がり、変更、立ち消えの中で土地は使われることはなかった。生活を破壊し、それを無為にしながら、なお平然と増殖し続ける都市、東京に対する怒りであった。

しかし、聖書にかこつけた声明文は、解決のヒントでもあった。レイバーの暴走のキーとなる建物の名は『方舟』、その建設計画は、『バビロン計画』であった。このヒントにより、作中で主人公たちは方舟を解体することで、東京壊滅を防ぐことができた。ある意味で帆柱は人間を試したのである。

牧博士はどうか。中盤に犯行動機と思われる調査結果が出る。放射性物質の影響によって妻を失い、本来核エネルギーの安全利用を研究していた牧博士は、結局核の力を暴走させるような形でゴジラを覚醒させた。

犯行声明から伝わってくるものは、帆柱のそれと非常に近い。

自分の行為は神を動かし日本に裁きを与える。だが、そこから立ち上がり、日本が解決できるかどうか、試してやる、という思惑である。

(しかし、それはハッピーエンドではない。帆柱が東京壊滅を防ぐ代償として方舟の解体、バビロン計画の大幅な遅延により、結果的に東京の発展を妨害したように、牧元教授はゴジラが凍結された後も、東京で日本人と核を共存させ続けるという結果を招いた・・・)

その思惑のためシン・ゴジラに対抗するヒントがアメリカにあったデータと、折り鶴として残されていたわけである。(ちなみに私は牧博士のボートにあったヒントとなる折り鶴、あれを見て攻殻機動隊S.A.C2ndGIGのクゼ・ビデオを思い出したのはちょっとこじつけだろうか?)

と、同時に、この思惑は日本という国に核の脅威を思い出させ、危機に対する政府や自衛隊の行動を否応なく起こさせるものであった。

その点で、劇場版パトレイバー2の犯人、柘植行人(つげゆきひと)を思い出す。

柘植は一発のミサイルで社会不安を醸成し、ハッキングによって自衛隊三沢基地から東京へ向けて架空の爆撃出動の情報を見せ、自衛隊、警察の対立を深刻化させ東京に治安活動を誘導する。そして、当局が気付く頃には全てが遅く、無線ジャックによって指揮系統を分断され、個別の部隊が戦力を持ったまま疑心暗鬼となる戦争の時間を、東京に演出させた。

柘植の犯行声明として、帆柱と同じように聖書の引用がある。

——我地に平和を与えんために来たと思うなかれ。我汝等に告ぐ、然らず、むしろ争いなり。今から後一家に5人あらば3人は2人に、2人は3人に分かれて争わん。父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に——(ルカの福音書12章)

東京という都市の中で戦争状態を演出させるに相応しい一文である。

更に事態の收拾が日本政府の手で叶わない場合は、安保を理由に米国が介入してくるというリミット付き。その中で主人公達特車2課は独断専行で犯人確保に乗り出す。

シン・ゴジラにおいても、気づいた頃には全てが遅いという状況、たった1つの引き金で全てが動き出すという流れ、米国の介入、国連の事態掌握と核攻撃のリミットにパトレイバー2の影を見る。(そして個人的には三沢基地で航空機を爆装させる指示がパトレイバー2を彷彿させる)

しかし、これだけ筋が似通っていても、シン・ゴジラの面白さが損なわれていない理由は、二つの作品の差異からわかるような気がする。

劇場版パトレイバー2が1992年のPKO派遣問題から、【『戦争』を『モニターの向こう側』へ押し込め、他国の戦争と犠牲で成り立つ『幻想の平和』の上で惰眠を貪り、あまつさえ利益を上げている日本】において、柘植個人がその中心たる東京に戦争を演出した。

当時は国内テロリズムへの懸念は議論になく、海外と日本の戦闘状態が議論の中心だった。

パトレイバー2公開が1993年に対し、地下鉄サリン事件は1995年である。その意味ではパトレイバーが現実を先取りした問題提起を仕掛けていた。

シン・ゴジラでは2007年の東日本大震災と、原発問題から、いうなれば【『核』を『モニターの向こう側』へ押し込め、暴走のリスクと犠牲で成り立つ『幻想の安全』の上で惰眠を貪り、あまつさえ利益を上げている日本】への挑戦として牧博士が東京へゴジラを向かわせた。この点で、シン・ゴジラは現在の問題を取り扱った作品なのである。

想定外が続いた3.11の大震災、そして原子力の脅威にさらされている現在という時間だからこそ、シン・ゴジラは作る意味があった。

(現在の問題をただちに取り扱うことは難しい。時間によってある程度客体化されてからでないと、実際の問題に向き合うことは難しい。その意味で震災直後ではこの作品は受け入れられなかったであろうと思える)

過去のどのゴジラとも違う意味合いを持たされているのは、ゴジラの最後からも連想される。今までは概ね海からやってきたゴジラが海に還るといった終わり方であったと思うが、今回は東京のど真ん中に、凍りついたゴジラがそのままの状態でも物語が終わる。核と共に生きているという今の状態を強く意識させる終わりである。

また、シン・ゴジラは、そもそもが特撮映画なのである。主題はゴジラ対日本なのである。

戦争の演出という高度な戦略を組んだパトレイバー2の理詰めの格好良さと、シン・ゴジラの見せ場である、実際にゴジラが東京を壊滅させる凄まじさ、それに抗う自衛隊の活躍、政府や巨災対といったより大きな組織がまとまり、彼らが行った努力の素晴らしさは全く異なる興奮をもたらす。

個人的には特に無人在来線爆弾の素晴らしさは特撮的な楽しさにあふれている。

在来線爆弾は東京駅でゴジラが止まったからこそ使える戦略だ。飛行するものは本能的に迎撃する一方、足元、地面を移動するものを脅威判断していないため、地上部隊は自動迎撃されないという分析と、大威力の爆発は効果があると米軍の攻撃から確認したうえで、最も多くの爆弾をゴジラに浴びせる攻撃方法として選ばれたのである！

この面白おかしい映像のために用意された理詰めを展開、これこそシン・ゴジラの真骨頂である。あるものを描きたいがために綿密にリアリティの約束ごとを取り付けておいて、鑑賞者が納得できる展開で思いっきり虚構を描く。その虚構には真実味が出るのである。

シン・ゴジラの話の筋がパトレイバーに基づくものであったとしても、それは作品を損ねることはなく、むしろ映像、特撮、テーマ以外の話の面白さを深める効果があると考えられる。それはサスペンス(=話の原動力)として高いレベルのものを用意した、ということだと思う。パトレイバーのパクリと一蹴するには、シン・ゴジラは非常に多方面に面白さを備えていると言わざるをえない。

個人的にもう一点パトレイバーを彷彿させるシーンを述べると、矢口が前半、エレベーターの中で太平洋戦争時に司令部が楽観視によって現実を直視しないという旨の独り言をつぶやくが、これはパトレイバー2の後藤隊長を思い出さずにはいられない。

——戦線から遠退くと楽観主義が現実にとって代る。そして最高意志決定の場では、現実なるものはしばしば存在しない。戦争に負けている時は特にそうだ——

結論

長々と話をしてしまったが、シン・ゴジラはそれだけオタク要素の強い作品であったと思う。これもスタッフの好きが集まって、自分たちの好きなものをこの作品を作ることによって恩返しされているからだと思う。

ゴジラ作品を網羅していないため、様々なオマージュが隠されていると思うが、今回個人的に気になった点をピックアップさせてもらった。

こうして見返してみると、

平成ガメラの技術を推し進めた作品であり、
エヴァとは志を同じくする作品であり、
パトレイバーとはその技巧を継承する

そういう関係性があるように思える。

それぞれ比較する中で、
「真摯に映画を作っている点」
「現代の文脈でゴジラを描いている点」
「自分たちの好きなものを詰め込んだ上でエンターテインメントになっている点」
が見えたような気がする。

本論の冒頭に引用させてもらった文は、柘植が犯行声明に用いたルカによる福音書12章に出てくるものである。

主人とは何か。

ゴジラと捉えれば、勤勉に仕えていれば、我らの王に報われるであろう。あの巨大な尾で鞭打たれないように、私も勤勉な僕になるだろう。
ゴジラの面白さを知ったからこそ、より深く楽しむ方法を模索する意欲が出てきた。

主人とは何か。

核の脅威か、震災か、あるいは戦後処理のツケか。
思いがけない日、想定外の時に帰ってきて、僕を罰する。

我々は備えなければならない。

そのヒントは、牧博士の折り鶴と同じように、この素晴らしい映画を庵野秀明が残してくれた。

終

補足するまでもないが、庵野秀明は死んでない。

きっとシン・エヴァンゲリオンをひっさげて帰ってきてくれると思う。

いや、別にシン・ゴジラ見たら満足したので、また別作品作ってください。お願いします。

【参考文献】

パンフレット

『シン・ゴジラ』

『EVANGELION：1.0 YOU ARE (NOT) ALONE.』

『EVANGELION：2.0 YOU CAN (NOT) ADVANCE.』

『ガメラ 大怪獣空中決戦』

『ガメラ2 レギオン襲来』

『ガメラ3 邪神覚醒』

書籍・雑誌

『月刊ニュータイプ2005年11月号付録①新世紀エヴァンゲリオン』（角川書店/2005年）

『図説地図とあらすじでわかる！古事記と日本書紀』（青春出版社/坂本勝監修/2011年）

『完全保存版古事記神話を旅する』（洋泉社/2016年）

『古事記・風土記 記紀歌謡』（角川書店/武田祐吉編/1957年）

『春と修羅』（青空文庫/宮沢賢治）

『花もて語れ 2』（小学館/片山ユキヲ/2011年）

『YouVersion』（聖書アプリ）

蛇足1

春と修羅に見る牧元教授

エンドクレジットに取り上げられていた宮沢賢治著『春と修羅』。
この本は作中のどの部分で活かされていたのか、記憶になかったためネットをチェックしていたら、牧元教授のボートで、遺書・折り鶴と一緒に置かれていたとのことだった。
3回目の鑑賞でようやく自分でも確認できた。確かに、春と修羅があった。
そうであるならば、何故春と修羅が置かれていたのか。
そして、わざわざクレジットに出すほどであれば、どう作品に反映されているのか。

私は宮沢賢治や詩に親しいわけではないが、いろいろと情報を仕入れて考えた結果をここにまとめておこうと思う。

牧元教授はゴジラ覚醒のために、あるいはゴジラを覚醒させたあと、海へ身を投げた。綺麗に整えられた革靴がそれを示している。
個人的には、牧元教授がゴジラと合一、あるいはゴジラ自身に変化したというのは、この靴の描写から考えにくい。これは自殺したと感じずにはいられない。

そこには遺書とも取れるメッセージがあった。

——私は好きにした。君らも好きにしろ——

私は好きにした
過去形である。

今も計画が実行されている状態であれば、私は好きにする。君らも好きにしろ、と現在形の文になるのではないか。遺書を発見される時点で牧元教授が能動的な行動を行っていない＝ゴジラとなって襲っていない、仮に同化しても牧悟郎としての活動はないと思われる。

次に目につくのが折り鶴である。
これは後に牧元教授が所属していたアメリカの研究機関に残っていたデータを解読するヒントとなる。
ちなみに、折り鶴はアメリカでも知られているそうなので、牧元教授のボートの情報があればアメリカ側でも解読できたかもしれない。(ただし矢口とカヨコの関係がなければアメリカはボートの情報を獲得できなかったかもしれないが)

そして『春と修羅』である。

宮沢賢治の詩を読み解くこと自体難しいが、ここで春と修羅が添えられている理由は、なにか。

作中では折り鶴が問題解決のヒントになったが、春と修羅は全くストーリー展開に寄与しない。

牧元教授の過去を探る中で、唯一の救いであった妻を核の暴威によって失い、その原因となった日本政府を恨むようになったとプロフィールされている。

春と修羅の作者宮沢賢治も、愛する妹を失っており、その出来事に関する詩は多い。ある意味妻を亡くした牧元教授は、妹を亡くした宮沢賢治へ自己投影し、春と修羅を手元に置いていたのかもしれない。
つまり牧元教授の人間像を掘り下げる目的で、製作陣からの意図によって配置された小物による演出と捉えられる。果たしてそれだけだろうか？

ここで、ボートに残されたメッセージを振り返ると、前半の『私は好きにした』は、ゴジラを目覚めさせ、東京を、日本への復讐を行ったことだと思われる。
一方、後半の『君らも好きにしろ』という言葉の意味を巨災対や矢口は、牧元教授がヒントを残した上で、核攻撃を行うのか、凍結を行うのか、どちらか好きな方を選べという意味ではないかと推測した。

前半に破壊の宣告があり、後半に救済の道を示唆する文が添えられている。

この二律背反は、牧元教授の他の点でも表れてくる。

生物学者でありながらエネルギー研究を行う牧元教授は、妻を奪った核の力を無効化する方法を求め続けた。それは核の力を憎んでいたためか、あるいは自分の妻のような人を増やさないために核の廃絶を願ったのか。

その研究の過程なのか、投棄された核廃棄物をエネルギーに変換する生物を発見した。太古の生物が放射性物質の環境下で生きていくために手に入れた元素変換細胞膜の力を牧元教授は知ることになる。

この元素変換細胞膜があれば、核の無力化の目処も付く。だがしかし、この技術は応用されることで、未知の元素、新たな放射性物質を作り出すことに繋がることになる。

この時点の絶望感はどうだ。

初代ゴジラで芹沢博士が平和利用の研究過程で生み出した「オキシジェンデストロイヤー」の恐怖におののいたことを思い出す。

牧元教授はこの研究資料の大部分を抹消し、日本へやってくる。

ゴジラというコードネームは牧元教授の故郷である大戸島の神の名前から取られた。

神のごとき力を手に入れた牧元教授は、結局今回の事件を起こすことになる。それは復讐のためか、裁きのためか、諦めのためか、あるいは、芹沢博士と同じく平和のためか。

牧元教授は日本への復讐心を捨てきれなかったのであろう。それだけ、妻への思いが深かったと想像する。ただ、それと同じく核の力も憎んでいた。

核を無力化させる力は、今や新たな核を生み出す元凶となった。

本当に平和を願うのであれば、軍事転用される前に全ての情報を消去して、芹沢博士のように自ら命を絶つという選択肢もあっただろう。

しかし、牧元教授はこのゴジラの力で日本に復讐したかった。個人的な理由によって。

それでも、新たな核を生み出す力をそのままにしておけない。そこで1つのアイデアとして、ゴジラを倒すためには、新たな核を生み出す力ごと、核攻撃によって細胞レベルまで焼却し尽くさなければならない状況をつくりあげた。

本来ならここまでで良いはずである。

それでも、牧元教授はデータと折り鶴を残した。

平和利用のための可能性を残したのである。核攻撃を回避できる力を持って、ゴジラ凍結に成功した日本ならば、その力を管理するに値する、と考えたのではないだろうか。

春と修羅に描かれている『永訣の朝』の最後の文

おまへとみんなに聖い資糧をもたらすやうに
わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ

修羅でありながら無垢な願いを抱く牧元教授が、そこにいたのかもしれない。

別の視点からも確認したい。

春と修羅はもともと牧元教授からのヒントの一部であるという考えである。

この「春と修羅＝ヒントである」、という考えは主に自分がチェックしていたツイッターで考察されていたアイデアである。

日本がゴジラ冷凍計画に至ったあと、必要なステップをあげると

①ゴジラの体内機関の推察、血流による冷却状態を逆手に取った血液凝固剤による凍結プランの立案

↓

①DOE（米国エネルギー省）の空白データを入手する

↓

②紙出力されたデータを線に沿って折る

↓

③分子構造が発見される

↓

④ゴジラは核廃棄物を捕食したのではなく、元素変換細胞膜でエネルギー化していることに気づく

↓

⑤発見された分子構造はこの細胞膜を抑制する効果を確認する

ここまで来てはじめて冷凍計画の実効性の目処が立つ。もしこれに気付かなければ、血液凝固剤は無効化される。

グローリー丸に残っていた牧元教授の遺品から、折り鶴をヒントとして②が解ける。

あとの①③は、はっきり言って日本政府側はノーヒントで突破しなければならない。

カヨコがパーソナルサービスでデータを提供してくれたから良かったものの、これでは好きにするも何も手が打てないだろう。

折り鶴は本来スペシャルなヒントだったと考えると、もう一方の遺品、春と修羅に焦点を当てる。

春と修羅、復刻版は資料協力となっている。その表紙を確認すると、そこにはアザミが描かれており、有機的な文様から、DOEのデータを想起させると考えられなくもない。

(参照<https://twitter.com/gertietime/status/762020349437292544>)

しかし春と修羅の表紙については製本時にそこまで深い意味はないという考えもある。 <http://d.hatena.ne.jp/shinju-oonuki/touch/20130522>)

春と修羅から連想される資料を、折り鶴で解説するという筋書きである。

だが、アメリカ側も手詰まりになれば、日米連携し情報開示する展開が想像できるので、ここはなんとかクリアできるかもしれない。

④ゴジラは捕食しない。という推定は、宮沢賢治が食物連鎖に非常に関心があったこと、ほかの動物を食べることに問題意識があり、菜食主義であったことも加味してもいいかもしれないが、あくまで、この本単体として考えていくと、序に出てくる下記を参考にしたい。

人や銀河や修羅や海胆は
宇宙塵をたべ
または空気や塩水を呼吸しながら

ここで、たべるということに焦点が行けば、「食べてないんだ」という思考に至るわけである。

これらを見れば、牧元教授は、ヒントを提示して、ゴジラの凍結を願っていたとすら思える。

ということは、これは牧元教授が日本に仕掛けた、ゲームなのか。
日本を試すというような神の視点からの行いなのだろうか。

ある面ではそうだろう。だが、これでは、多くの日本人が犠牲になることを厭わない、狂気のゲームである。たった一人の科学者が到達する境地なのか？

ここに至るには前述と同じく、二律背反する精神状態があったのではないだろうか。

生物学者でありながらエネルギー研究の道を進んだ原因は、やはり牧元教授の妻を死に追いやった核の無力化を目指したからではないか。

だが、その希望は碎けることとなる。

妻を死に追いやった核の無力化の研究結果が、悪用されればまた新たな核の脅威を創り出す。
この結論へと思い至った時、牧元教授はどこへ行き着くのか。

恨む対象が日本に向かった。

最早止められない怒りだったのだろう。何かに向かわなければ己の中にとどめておけない感情だったのであろう。
彼がもたらした死者、被害を考えれば、一個人が行える破壊活動の中でも最悪と断言していい業である。

だが、その一方で上記のヒントを残している。これは、明らかに冷凍計画での解決を期待した行動である。

牧元教授は、日本と米国それぞれにヒントを残した。日米が協同でゴジラに対処できるかどうか、ゴジラ凍結の要と考えれば、牧元教授は国際協調が狙いだったのか。

(参照<https://note.mu/shinkai35/n/nf9ea42918609>)

もしそうであれば、それはDOEのデータを日本が入手した時点で、日本側が冷凍計画を完遂できる条件が揃っている。カヨコがパーソナルサービスをした時点で、日本と米国の協調関係が出来ているとは考えにくい。

そこにも意識はあったかもしれないが、牧元教授は東京を破壊し尽くさんとする修羅でありながら、同時に無垢でありたかった、あるいは人として残しておくことがあった。

ゴジラが日本を襲えば、米国はゴジラの力、新たな核を作り出す力を狙うだろう。それは、また別の核の脅威を生む。それだけは避けたかった。

冷凍計画以外に残された方法は、核の炎で焼き尽くすことである。この選択を取れば、ゴジラは消滅し、研究成果の全ては灰燼に帰す。(あるいは核攻撃が始動キーとなり、進化し群体化したゴジラたちが世界中を破壊するという仕掛けがあったかもしれない)

しかしもし、牧元教授が核の無力化という奇跡を残せるとしたら、託すことができる相手を探すだろう。それは核の脅威を最も理解している者、核の力を使わないという選択ができる者、それはアメリカではない。

それは、日本であろう。

しかし、それは核攻撃を拒絶できる日本が受け取ることができる。

牧元教授の妻を見殺しにした日本ではない。

あらゆる力を使って、核攻撃を受け入れない日本であってはじめて、ゴジラの福音を渡すことができる。

ここでスパコンの並列化を協力した国としてドイツが挙げられるのは興味深い。作中で名前が挙がった国（米、中、露、仏、独）の中で、核兵器を保有していないのはドイツのみである。（ただしドイツもニュークリアシエアリング下に入っているが、それを言えば日本は安保によって核の傘の下にいるわけだが...）

他国からの核攻撃を受け入れてしまう日本では、いずれ、核の脅威を生み出してしまう。

もし、圧力に屈して核攻撃という選択をする状態であれば、何も変わらない。

「ここがトーキョーでも同じことをする」と決して言わない日本になれば、任せられる。

牧元教授のアンビバレンツな感情はまさしく正反対の計画を打ち立てた。

私は好きにした

とは、逆に言えば

私には好きにできないことがあったが、それをクリアして今回のことを起こした

ということである。

好きにできなかったこととは何か？

ゴジラによる東京壊滅を望んでいながら、倫理的に止めていたが、その歯止めを捨てて今回の計画に着手したことか？

個人的な見解は、自分の恨みを晴らすことで、元素変換細胞膜の力を失ってしまう、という二律背反の状態が、好きにできなかったこと、ではないだろうかと考える。

東京壊滅を計画していれば、わざわざヒントなど残さない。

日本の未来を憂うのであれば、あそこまで壊滅的な被害を与えるとは思えない。

相反する思想をどちらも行うこと、これこそが牧元教授のいう「好きにした」ことだと考える。

蛇足2

ヤマタノオロチの尾から出てきたものは、果たして草薙の剣なのだろうか？

個人的に気になっているのが、シン・ゴジラ最後のシーン、尾の先端にカメラが寄って、そこに人型らしきものが映されたエンド。

この描写は何を表しているのか。

最初は、これまでに死んだ人々がいるということを表すための表現かと思ったが、鑑賞した人と話をするうちにどうやら物語途中で進化のスピードについて言及された群体化、小型化、有翼化といった現象が始まっていたことを示す描写のようだと思うようになった。私見を言わせてもらえば、このシーンは含みをもたせ過ぎていて、綺麗な終わり方とは思えないので、それほど好きではない。

ただ、いろいろな考察の余地がある、余韻があるといえそうかもしれない。

手っ取り早く言えば、次回につながる可能性なのだろう。

もしくは、頭の形状などが似ている巨神兵となって、庵野秀明の以前の作品『巨神兵、東京に現る』へ繋がるのかもしれない。

古事記によれば、スサノオノミコトは、ヤシオリの酒でヤマタノオロチを眠らせた後、八つの尾、八つの首を全て切り落とそうとして、尾に剣を入れたときに刃が欠けたという。

(日本書紀の異書では、この時にオロチを倒した剣がアメノハバキリである。矢口は凝固剤投与部隊にこの名前を付けたようだが、この刃が欠けたシーンを思えば、第一陣がやられることは神話的に必至だったかもしれない)

そこで、スサノオは不思議に思い尾を切り裂いてみると、中から一本の剣が出てきた。

スサノオは最高神アマテラスオオミカミにオロチの尾から出てきたこの剣を献上する。

後に、草薙の剣と呼ばれる神剣である。

ヤマタノオロチならぬゴジラの尻尾から生まれ出ずるこのゴジラ人間は、何者なのか？

このシーンを巨神兵と絡めるのは面白いように思う。

ヤマタノオロチの尾から出てきた草薙の剣、ヤマトタケルの東征の際、野に放たれた火を払うために振るわれたことにちなみ草薙の名前を与えられているのだが、そこから火を消す、つまり人が闇を恐れ手に入れた文明の火を消し去る、巨神兵として目覚めるのかもしれない。たくさんのゴジラ人間が生えているのも、『巨神兵、東京に現る』の作中で巨神兵が複数存在することに合致する。

あるいは私は、火の7日間をもたらす巨神兵を薙ぐための力として、人類の守護者としてのゴジラになってほしい、という妄想をしている。そうなれば、ゴジラVS巨神兵だ！シンVSシリーズの到来だ！

終

うる覚え！明日から使いたい「シン・ゴジラ」名台詞集①

数々の名台詞がSNSを中心として話題となっているシンゴジ語録。
ファンの中で盛り上がり過ぎて、もはや全ての台詞が名台詞にすら思えてくるこの扱いは
漫画『ジョジョの奇妙な冒険』の様である。
ここでは、独断と偏見で印象に残った台詞をピックアップしてみた！ 文：ぶなしめじ

現実（ニッポン） 対 虚構（ゴジラ）

（解説）

言うまでもなく『シン・ゴジラ』のキャッチコピー。
もし、現代の日本にゴジラが現れたら……。本作のコンセプトを簡潔に体現している。
公開当初、本来の意味とは裏腹に、目の前に立ちはだかる厳しい現実と直面した際に、
「現実 対 連休」といった具合にSNSの投稿に使用する例が見受けられた。
……。我々が常に戦っているのは、虚構ではなく厳しい現実である。

東宝映画作品

（解説）

東宝ロゴ2連続からの我々が「東宝映画作品」！この時点で既にお腹いっぱいである。

映倫

（解説）

かつてここまで主張した映倫があっただろうか……

船体名、「グローリー丸」

（解説）

元ネタはおそらく初ゴジに登場した栄光丸と思われる。

細かいことは下に任せておけばいいだろう

総理レクは結論ありきの規定路線だ。むやみにかき回すのはやめとけ
里見祐介農林水産大臣は豪州外遊中のため不在

以下 中略

（解説）

こちらもテロップネタ。多くの観客に動揺と衝撃を与えたであろう演出。
LINEのグループトークが白熱している際に投下したくなるワード。

しかし、あらゆる可能性を具申すべき事案と考えます
中断！会議を一時中断します！テレビ、テレビ点けて！
信じられません！まったく信じられません！
自分の目がまったく信じられません！

矢口の冗談が現実になったからには受け入れるしかないか

(解説)

本作の序盤は、キッパリと断言してからの事態豹変の連続である。

前代未聞の事態に振り回され、政府関係者が右往左往する様が本作の見所の一つである。

え？・・・動くの？

(解説)

確かに生き物であれば当然である。

ちょっと考えてみれば当然でも、事が起こるまで気づけない。

なんとなくコミカルな雰囲気漂うシーンではあるが、思い込みや集団心理による思考停止の恐ろしさが表れている。

不確実な憶測ではなく、確実な情報のみを公表すべきです。

え！？・・・蒲田に！？

(解説)

このセリフの直後、衝撃の蒲田くん初登場シーンとなる。

ここまで、なんとなくコミカルな雰囲気が漂っていた本作が、一転して阿鼻叫喚の災害スペクタクルとなる。

どうするんだ、上陸はしないって言っちゃった後だぞ！？
ハッキリ言わんと国民は安心せん！心が伝わらんだろう！！

対処フローはシンプルです。

静観つまり野放、あるいは捕獲か駆除か、もしくは湾外に追い出すか。

・・・今の、どの役所に向かって言ったんですか？

会議こそが民主主義さ！民主主義の根幹さ！

(解説)

正確には、このシーンではなかったかもしれないが、落ちそうで落ちないキングファイル。ファンは皆、気にしています。

総理は渋るよな・・・

今ここで決めるのか！？聞いてないぞ！！？

即応可能な回転翼機での作戦を立案しました。

・・・続く

とにかく「カマウくん」のインパクトにやられました。
そこから始まり怒濤の大災害、リアルなTVニュース
映画も見ているというより「体感している」という
感覚でした。

とんでもないSFと実務にあたる職員、自衛隊のリアルさ。
プラズマ光線も吐くゴジラの場面で

「Who will know」という哀しい曲が
流れますが、また
「こんなこと誰が予想し得ただろうか」。

蒲え
田つ
に
!?

迫力、ロマン、人間、エンターテインメントの要素。
(恋愛以外の) ぜんぶ入りのスゴイ映画でした。

John M



良い映画の条件のひとつは、その時代の本質を見通しているかどうかだ。(yugo)

良い映画の条件のひとつは、その時代の本質を見通しているかどうかだ。

文：yugo(@yugo_tak)

紛れもなくシンゴジラは3.11以後の映画である。

防災服を着ての記者会見、放射性物質に恐怖する人々、崩壊した福島原発原子炉建屋にヘリコプターからの放水を彷彿とさせる無人在来線爆弾や血液凝固剤を口内への直接投入といったあまりにもアナクロでアナグロなヤシオリ作戦。シンゴジラを見て3.11を意識した人は多いだろう。

3.11以後の映画に分類される映画は沢山あるが、その多くはドキュメンタリーであった。

3.11という現実と一生懸命に向き合い消化しようと努力する日本人の姿だ。同じ”3.11以後映画”でも、シンゴジラはそんな映画と一線を画す。

3.11、日本はその時、なりふり構ってられない状況だった。その状況下、日本政府と陸上自衛隊が考えだしたのが、福島原発原子炉建屋の放水作戦である。

テレビニュースの生中継でヘリコプターから放水される映像を見ていた私は衝撃を受けた。日本中の叡智を結集させた結果、これが一番確実に有効と判断した現実(日本)にだ。この作戦が馬鹿らしいとか、素晴らしいとかそういう話ではない。小説や映画のフィクションでなく現実で日本政府や陸上自衛隊が本気を出して考えると、それが有効と判断すれば、時としては小学生でも考え出しそうな行動を取ることが現実には起こるといふことだ。

シンゴジラでは日本という現実世界を舞台にしている。そしてゴジラが甚大な被害を与え、3.11のようになりふり構ってられない状況だ。

映画では、世界は合理的な判断の結果、先の戦争で原爆の被害を受けた日本に対して、人道的な核爆弾の使用を決定するのである。ゴジラはマクガフィンにすぎず、日本や世界が危機的状況であればそういう意思決定はされうるといふことだ。

そして3.11という危機的状況を経験している我々日本人こそ、そんな状況により説得力も感じ、世界の誰よりもリアリティとして感じられるのである。

そんな日本でシンゴジラが成功した意味はなんだろうか。

3.11は誰にとってもトラウマで辛い経験である。しかしながら、シンゴジラによって追体験される3.11をエンターテインメントとして受け入れられることが出来るようになった土壌が現実世界の日本に出来たといふことだ。

日本人が3.11を乗り越えて消化し、ドキュメンタリーからエンターテインメントへ昇華させることが出来た証である。現実世界と地続きなフィクションとしてのシンゴジラ。そこでは、ドキュメンタリーよりも「いま、ここ」の本質が描かれている。

シンゴジラ以降、3.11を扱うドキュメンタリー映画の立ち位置は大きく揺らぐといふいい。

それほどの意味があるのだ。

現実(日本)対虚構(ゴジラ)。

そしてこれから先、ゴジラ並の虚構が現実として日本を襲うとしたら、日本はこの映画のように立ち向かうことが出来るのだろうか。

そんな問に対して、この映画はひとつの答えを出しているのである。

「日本はまだまだやれる」

こんなにカワイイ！！シン・ゴジラ！（有真文吉）

こんなにカワイイ！！シン・ゴジラ！

～真面目な考察はもっと詳しい方におまかせします～

文：有真文吉(@Bun_Sing)

○はじめに○

まるで他人事のような言い方をしますが、「ゴジラが女性にも受けてる！」というのが、此度の「シン・ゴジラ旋風」の特質なのだそうですね？

映画ファンでもない若い女が怪獣映画だなんて、カレシに押し切られてしぶしぶ？それとも、アニメオタク女子が総監督・脚本の大看板に釣られた？なんて周囲の疑念を押し切って(笑)ネット界限はもちろんテレビやラジオでも、女性のお客さんが次々にシン・ゴジラに喝采を送る姿が取り上げられています。「女性限定鑑賞会議」と称して新宿バルト9で催された上映会は3分で完売、「シン・ゴジラを語る会」と銘打った街コン（町ぐるみで開催する大型の合コン！）まで開催される始末！

女だってゴジラ好きになることもあるわよ——そんなアタリマエの話が未だに「へえ～そりゃすごいな」と受け止められるのは、女の身では少々がっかりしちゃうんですが、……まあいいとしましょう！同好の志が増えることほど喜ばしいことってないですから！

そうなんですよ！

何を考えているのかまるで推し量れない虚ろな金壺眼、凶悪極まる乱杭歯、これまで以上に筋肉を強調したデコボコの身体に爛れた皮膚、不気味なしっぽと、まるで俺は絶対にヒーローゴジラになんかならないぞと全身で表明しているかのような「呉爾羅」こと今作のゴジラ。劇中の活躍だって、人類から見れば心を開く余地すらない怖い、恐ろしい、シン・ゴジラが！ふたを開けてみればカワイイかわいいかわいそう、小さかったら飼っちゃいたい、いや巨災対なら飼えるはず！……などなど。大変、大変愛されているのです！筆者が見る限り、一番人気は蒲田に出現した今回のゴジラの第二形態、通称「蒲田くん」の様子ですが、品川でまるで進化のように急成長を見せた第三形態（通称はもちろん「品川くん」！）、果ては鎌倉から上陸して東京三区に至るまで破壊の限りを尽くしてしまった第四形態、通称「鎌倉さん」に至るまで、イラスト、小ネタやハンドクラフト、果てはゴジラを「受け」にしちゃったヤオイ作品まで、あらゆる手段で「好き！」を表明する方が増加中……。

果たして、あのゴジラがこんなにカワイイがられている理由とは……？という話を、あまり深くは考えず、独断と偏見で並べ立て、あのシン・ゴジラがこんなにカワイイ！と訴えるのが、本論の主旨なんです。

?カワイイとは何か？というはなし

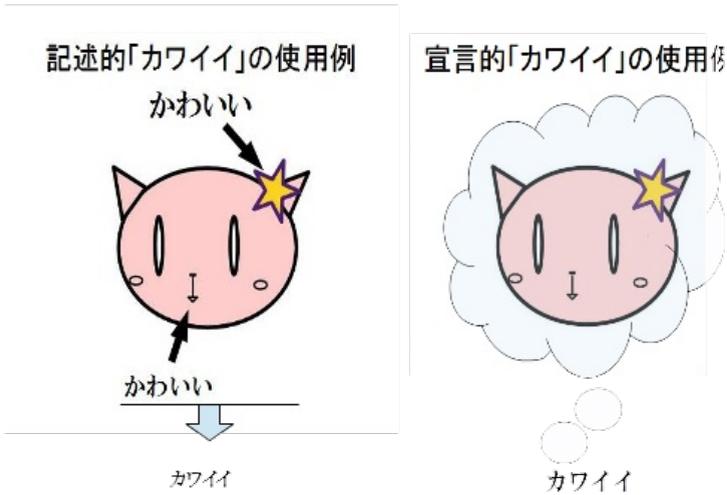
ところで本題に入る前にそもそも……カワイイって、何なんですかね？

女性が何に対しても使いまくる謎のワードとしてすっかり定着したこの言葉ですが、今から1200年ほど昔に書かれた『枕草子』の一編では、「子どもやスズメ、小さい葉っぱ」など現代人から見るとカワイイもの＝「うつくし」という図式が成り立っているため、本来カワイイという気持ちは「うつくし」という語で表現されていたことが判明しています。一方でカワイイという言葉の起源は諸説ありますが、「かおはゆし」であるという説が一般的で、こちらは現在で言うところの「かわいそう」が意味としては近いようです。そしてその後適用されるようになった漢字表記では「可愛い」すなわち「愛す可し」としているわけですから、「かわいそう」→「愛してあげなきゃ」→「カワイイ」というように語感が変化してきたのでしょう。

このため現在使用されている「かわいい」にも「見た目が好ましい」「存在が愛おしい」「庇護欲を刺激される」「小さい」「親しみがもてる」といった意味が内包され、ここからそれぞれに意味が拡大されて使用されているので「何にでもカワイイと使いまくる人がたくさんいる……」状況が生まれてしまっているというわけです。上記のような傾向は女性のほうがより強いとされており、女性が「全体的な印象を肯定する意味」で「カワイイ」を宣言的に用いることが多いのに対し、男性は「見た目が好ましい」「庇護欲を刺激される」といった具体的な印象について記述的にこの語

を用いることが多いとされています。

そんなわけで、多岐にわたる「カワイイ」を具体的に定義するというのはかなり難しい作業なのですが.....本論は「女性にゴジラが人気らしいという話題」から入っちゃいましたので、より女性的な用法に近い「私は対象を評価しますと宣言する際に用いる語」である、としておきたいと思います。



?ゴジラの何がカワイイの?

はい、難しくなりそうな話はここでオシマイ!ここからはもっと適当に印象と観念論だけで話します。始めますよ!いいですか!?

1. 深海魚みたいでキモカワイイ!

折しも世は深海魚ブーム。深海魚のキモカワイイさに惹かれて水族館に訪れる人が年々増加中。ということで、巷にも深海魚をモチーフとした雑貨や小物が溢れる世の中になってまいりました。一説には第二形態=蒲田くんのモチーフにも原始的なサメの特徴をもつ“生きている化石”「ラブカ」が取り入れられているようで、蒲田くん人気に便乗してラブカぬいぐるみを宣伝した水族館が話題になったりもしています。深海魚の魅力は「不思議さ」「形の面白さ」がよく挙げられるのですが、グッズにされることが多いモチーフにメンダコやクラゲ類から硬骨魚的なものまでが多岐に渡ることから、どうやら「普通のお魚とは違うユニークさ」がキーワードのようです。シン・ゴジラにおけるゴジラも本来海底に生きていた生物ということで、これまでのゴジラとは違う姿——よく目立つ鰓や大きな眼などには深海魚の魅力がしっかり表れていると思っていいのではないのでしょうか。

2. 眼がカワイイ!

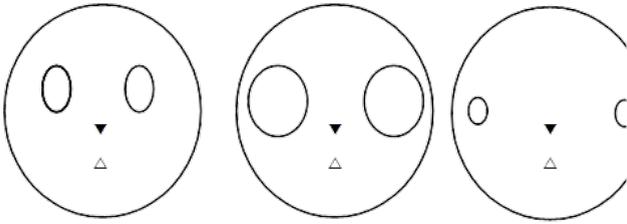
イラスト指南書などによく書いてあることですが、顔に対して目の割合が大きければ大きいほど、人間は幼さ=可愛さを感じるようにできているのだとか。そのため少女漫画などでは実に顔の面積の三分の二が目で占められているようなキャラクターも珍しくありません。

それでは蒲田くんと、第三形態=品川くんを見てみましょう。今までのゴジラにはない大きな大きな眼がむき出しになっています。その描写としては、どろんと淀んだ死んだ魚のような——というのが正しいのでしょうか、そこはとにかくアバタもエクボ、うるうるしたつぶらな瞳!——と言い換えてしまえば、元より尋常ではないサイズも手伝ってあどけなさもプラスされ、魅力的な愛らしさを醸し出している.....はず。

もちろん、第四形態=鎌倉さんにまで成長すると今度は頭に対して非常に小さいサイズになってしまうので、残念ながらこの法則が当てはまらなくなってしまうのですが、こちらは正面から見てみてください。

眼と眼の距離が離れていて、おまけに顔全体が小さく鼻の位置が高い、童顔の条件が揃っています。

眼の大きさ・間隔と鼻からの高低差による見え方の違い



また、鎌倉さんの眼が小さく見えるようになることにより、蒲田くんや品川くんの眼が大きく感じられ、相対的に「蒲田くんや品川君は子供っぽい」印象を与えることになるのもポイントです。

3. 子供っぽいところがカワイイ！

邪魔な川船も自動車も、よいしょよいしょと押しのける——鎌倉さんの障害物を蹴飛ばしながらただ悠然と突き進む姿に比べれば、蒲田くんのしぐさは実にちょこまかしていてしかも障害物を懸命にどかしているだけ。単純で、しかも危なげです。

実際のところ上陸したときからずっと二足歩行ではあるのですが、極めて前傾した体勢でよちよちと歩いてくるので、一見しただけの人には四足歩行していると勘違いすることもあるようです。途中まで河川や道沿いに大人しく歩いてきた蒲田くんでしたが、何を考えたのかまだ幼いお子さん連れのご夫婦が中にあるマンションに乗り上げ、哀れなご家族ごと押し潰してしまいます。キミは一体何がしたいの？蒲田くんが立ち止まって進化の如き成長を遂げるとき、回答を示された視聴者は手をたたくことになるのです。「……立とうとしてるんだ。」蒲田くんが咆哮とともに上方へ思いっきり伸び上がり、すっきりと立って品川くんとなり、ビルの傍らにつくねんと立ち尽くす姿……それはまるで這い這いから掴まり立ちを経て自立できるようになった幼児の姿ではありませんか！直立して歩くよりまだ蒲田くん歩きの方が早く移動できるのも、掴まり立ちより這い這いの方が早い幼児の習性を思わせます。いわばゴジラになる前の赤ちゃんゴジラ。これまでのシリーズで表すならば恐竜ゴジラザウルスの赤ちゃんが怪獣ゴジラジュニアへ成長したようなものでしょうか。

そして初めて品川くんとなったゴジラがあげる雄叫びが初代ゴジラのそれであることも、その印象を強くします。サルが直立二足歩行をすることで初めてヒトと成り得たように、蒲田くんは直立することで初めてゴジラとなったのです。うんうん、成長痛って痛いよね！

4. カワイソウ、だからカワイイ！

シン・ゴジラについての感想として非常によく聞くことができるのが、「ゴジラが熱戦を吐き東京が破壊されるシーンで泣いた」というもの。攻撃を受けたゴジラ（鎌倉さん）が明確に人類に対して反撃し、その凶暴性と凶抜けた破壊力を示す場面となるはずなのですが、BGMとして流れるコーラス（一部アリア調）の壮絶な悲壮感も手伝って、画面の中で生じているとてつもなく悲劇的な事象・心象のなかに、それを引き起こしているゴジラ自身さえも含まれているような感覚を受ける人が続出しているようなのです。つまり（画面には映りませんが）罪のない一般市民がゴジラによって虐殺の憂き目に遭っているはずなのに、危害を加えている側のゴジラがこれまたとっても可哀想に見えて、同情して思わず泣けちゃった——と。

実のところ、同様の反応は第一作の「ゴジラ」のときから既に寄せられていたことは広く知られていることですが、やはりゴジラを憎むべき怪物としてのみ捉えるのは「ゴジラ作品という文脈においては」かなり難しいことのようにです。そもそもゴジラには人類に対する敵意はないわけだし、人間が核をもてあそびさえしなければ深い海の底で平穏な一生を送っていたかもしれない……言ってみれば核の犠牲者であることは、特に日本人としては同情したいところです。そんな罪のない生き物に一方的に攻撃を加えるのに少々の罪悪感を抱いたって、何の不思議もありません。「かわいそう」の感情すなわち、「かおはゆし」。カワイイの語源です。同情や罪悪感、憐憫の感情からも、カワイイは容易に導き出されちゃうものなんですよ！

5. ゴジラだからカワイイ!

そりゃそういうのもいるけどさあ.....と思ったあなた。あなたはそれなりの数のゴジラを観ておられるものと推測されます。あなたのようなゴジラ玄人でしたら、ゴジラが本来被害者であることも常識なら、結構イヤツであることも当たり前で、過去の何だかカワイイ顔をしたコミカルなゴジラだって（許せるか否かはともかくとして!?) ご存じのはず。長い歴史のグラデーションのなかのどこかに「マイ・ベストゴジラ」があるにせよ、そうしたキャラクターをも内包してきたシリーズ全体の総体としての「ゴジラという存在」も評価しておられる。つまり、それは本論で述べますところの「ゴジラがカワイイ」状態にあるということです。

しかし、これが今までゴジラと縁遠い生活を送ってきた人々の場合はどうでしょうか?彼らにとってゴジラとは、「映画の街を壊す恐竜みたいな、男の子のおもちゃに買ってあげる怪獣(※八〇代女性三人に聞き取りを行った結果を総合)」というような、ファジーながらも幼稚で暴力的な、どちらかといえばワルモノ寄りのキャラクターであると推察されます。

そんな方々が今回初めて直面することになる「シン・ゴジラ」。幼稚なイメージを覆すに足る映画自体の出来に舌を巻いているうちに、大勢の方が感じるのは、ゴジラが決して悪意を抱いた敵役としては描かれていないということではないでしょうか。本来彼らが抱いていた漠然としたゴジラのイメージ——凶暴凶悪、人類にとっての恐るべき害獣であるゴジラ——が、実は悪いやつじゃないじゃないか、人間のエゴに巻き込まれて、攻撃されて、憎まれて.....こんなにかわいそうじゃないか!と覆されるその落差、つまりギャップ。そこに愛着の生まれる余地が生じます。これがいわゆる「ギャップ萌え」というものです!

これについてはそこそこ早い時期から狙って行われていた節があり、映画公開直前から大々的に行われた数々のタイアップコマースでは、ゴジラにお買い物ビニール袋や商品を持たせたポスター、あるいは可愛らしい他のキャラクターとのクロスオーバーなどが多く登場しました。「ゴジラなのにこんなことしちゃってる/させられちゃってるゴジラ」というギャップからくる可笑しみを狙ったコマースは、同時に本作のゴジラ(主に鎌倉さん)に対してもひょうきんな一面を付与することに成功していると考えられます。愛すべきキャラクターという先入観としての愛着を少々抱いてさえいれば、劇中の狼藉を見つめる視線にも温かみが加わるというものです。

?ゴジラってこんなにカワイイ!(総論)

以上、シン・ゴジラのゴジラってこんなにカワイイの条件に合致する!つまりカワイイ!と、あることないこと訴えてみました。つまりは「カワイイ」の捉え方次第なんです.....ということで、「ゴジラというもの」に対するの萌えの感情を具体的に説明させられるような想定外すぎる事態に直面した際の援けになれば幸いです。が、ともあれ、シン・ゴジラがカワイイです。とても、カワイイです。蒲田くんも品川くんも鎌倉さんもカワイイです。出来れば、アクアラインくんのご尊顔を拝みたいところではあるのですが、それはまだ内緒のようで.....今後の楽しみに待ってますね。でもこんな文章こんなところまで読んでくださったあなたなら、シン・ゴジラのカワイイところなんて五点じゃ収まらないことくらい、「はいはい、分かっていますよ」ってところだったりしちゃいますよね?大体、登場人物だって相当愛すべき、カワイイ人材が集まっていますし、ゴジラがカワイイのは分かるにせよどうして突然二次創作で弄られるようになったのかも気になるし.....もうシン・ゴジラ全体のカワイイを真面目に分析したらこの文章のあと三倍くらい長々と書き連ねなければなりませんので、以下、後略。とさせていただきます!

最後に、ここまで駄文にお付き合いくださいましたあなた様のご清覧と、本論作成の機会を下さいましたレクシズマーレポートメンバーの皆さまのご厚意へ厚く御礼申し上げます、本論の締めと致します。

参考: (深海魚ブームの一端が覗けます。)

・魚・海|YOU+MORE! (ユーモア) |フェリシモ

<http://www.felissimo.co.jp/youmore/wk57510/>

・空前の深海生物ブーム なぜ女性がハマる? | HATENAVI | ZIP!

www.ntv.co.jp/zip/onair/hatenavi/404414.html

うろ覚え！明日から使いたい「シン・ゴジラ」名台詞集②

凄い……。まるで進化だ。

いえ、ローテで行きます。皆、入隊した時から覚悟の上です。

目標が報告と違う！繰り返す！目標が報告と違う！

射撃待て！射撃待て！

射線上に人がいる。射撃の可否を問う。

まだ人がいる。射撃の可否を問う。

どうしますか？撃ちますか！？

いいですか！！？総理！！！！

自衛隊の弾を国民に向けることはできん！！

(解説)

この一連の流れ。本作を体現する名場面の一つである。

完璧ではないが最善は尽くしている。自惚れるな、矢口。

首を斜めに振らない連中を集めて渡すよ

ああ、骨太を頼む

出世に無縁な霞ヶ関のはぐれ者、一匹狼、
変わり者、オタク、問題児、鼻つまみ者、厄介者、
学会の異端児、そういった人間の集まりだ。

(解説)

この場面であの庵野作品の名BGMの登場である。

初観賞時、「さすが庵野！おれたちにできない事を平然とやってのけるッ！そこにシビれる！あこがれるウ！」と言わんばかりのオタクたちの拍手と笑いが巻き起こった。

あれだけのエネルギー……。まさか、核分裂……。

冗談ポイですよ、尾頭さん。ありえません。

尾頭さんの説が正しかったという事か？

……ごめんなさい。

レッド・ノーティスですか？

(解説)

レッド・ノーティス・・・国際刑事警察機構が加盟国の申請により発行する通知。その国で逮捕状が出ている被疑者などについて人物を特定し、発見したら手配元の国に引き渡す方向で協力するよう各国に要請するもの。決して、この秋公開のスタジオジブリ作品ではない。

私は好きにした、君らも好きにしろ

一件だけヒットしました。牧元教授の故郷である大戸島で、
“神の化身” を意味する言葉のようです。

呼びにくいな。日本名は本来と同じく、ゴジラにしよう

・・・ZARAはどこ？

(解説)

ザラ (ZARA) : スペイン・ガリシア州のアパレルメーカーであるインディテックスが展開するファッションブランド。ガリシア語とスペイン語ではサラ [ˈθara] と濁らずに読む。

※wikipediaより抜粋。

意外と初見では理解が出来ない人も多い台詞で、確かに直前の台詞を考えれば服の話題になるのも頷けるが米国大統領特使が着用するランクのブランドなのだろうか・・・。

こんな時に名前なんてどうでもいいでしょうに・・・。

いいじゃないか、米国に由来があるならそれで。

名前は、付いていることが大切だ

そのシャツはいつい何時から着ているんですか？

正直、服も部屋も少し臭います

皆、言われなくても自分のできる事を黙々とやって、
家庭があるから帰っていいですよと言っても帰らず。
帰ったとしても早朝には手料理を持って出勤してくる。

・・・マジ、感動っすよ！

・・・この国は、まだまだやれる。そう感じるよ。

・・・続く

怪獣王の凱旋(ゆうや)

怪獣王の凱旋

文：ゆうや(@kyocosendan)

よくよく考えたら、もう12年も経っていたのか。
シン・ゴジラが公開されてからおよそ一ヶ月が過ぎた今、僕はふとそう感じた。

ミレニアム世代の僕にとって、ゴジラは小さい頃から特別な存在だった。
怪獣ならウルトラマンコスモスにも登場するし、ハリケンジャーや仮面ライダー龍騎も毎週見ている。
しかしゴジラは、他の特撮作品以上に僕を魅了した。
圧倒的な強さ、精悍なフェイス、そして究極的ともいえるデザインのシンプルさ、それだけでも「あ、こいつは他の怪獣とは別格だな」と子供心ながら感じたし、年に一度劇場でしか会えないというのも、銀幕のスターのような雰囲気醸し出していた。
肌寒い12月にゴジラ好きな父親と一緒にゴジラ映画を見に行き、劇場限定ソフビを買ってもらおう。
それはもはや小学生の僕にとってはクリスマス、お正月に並ぶ冬の一大イベントであったのだ。

だが、怪獣王との別れは、すぐに訪れることになる。
2004年の冬、いつも通りわくわくしていた僕は父親が持ってきた新聞広告にショックを受けた。
それに描かれていたのは背を向けて咆哮する怪獣王の荘厳な後ろ姿と、『さらば、ゴジラ。』という小2の僕にはあまりにも衝撃的なキャッチコピーだった。

「なんでさらばなの？ゴジラの映画は毎年やってるじゃん。それなのになんで終わっちゃうの？」
もしかしてもう二度とゴジラの新作は作られないの？なんで？そんな感情がずっと頭から離れなかった。
さらに追い打ちをかけたのが同時期のNHKのドキュメンタリー番組『さらばゴジラ 怪獣王と日本人がたどった半世紀』である。
小学校3年の頃なので細かい内容は理解できなかったものの、ゴジラが映画業界の中で非常に苦しい状態にあり、メインストリームから遠のいていることを改めて再確認させられた。
言われてみればクラスみんなはポケモンとデュエマの話で持ち切りで、めったにゴジラが話題に上がることはない。
映画もポケモンやディズニー映画が主流になってるし、やっぱりゴジラってマイナーなのかな、そう感じずにはいられなかった。

そして来る12月4日、「ゴジラ FINAL WARS」が公開。
今でもラストシーンと宝田明から出てきたX星人を明確に覚えている。
故キース・エマーソンのBGMをバックに、朝日に照らされながらミニラと共に海へと帰っていくゴジラの姿はどこか哀愁を帯びており、「ああ、来年からはもうゴジラは見れないんだろうな」という思いでいっぱいになってしまった。

その後中学生になり、特撮に対する羞恥心は増していった。
心の底では特撮を楽しみたい。その一方で「いい年して恥ずかしい」という感情は消えないし、第一もうゴジラは帰ってこない。そんな僕のゴジラへの対処法は、「忘れる」だった。
そして僕の脳内ではゴジラは記憶の隅へ、より隅へと追いやられていた。
中高と僕はゴジラに対する情熱をひた隠しにしては毎日を送っていた。

だがゴジラ熱は再び訪れた。
熱が再発したのは2014年の高3の時、そう、2作目となるハリウッド版の「GODZILLA」が公開された時だ。
ギャレス・エドワーズ監督のゴジラは、一人の男のゴジラ熱を復帰させるには十分といえるほどの作品だった。

やはり大作映画といえばハリウッド、今までの作品にはない破格のスケールで怪獣王が映されており、放射熱線のシーンでは思わずスクリーンで涙ぐんでしまう僕がいた。

ゴジラの登場シーンの少なさや一部の展開など不満点も無きにしも非ずだったが、それらの欠点をも上回る魅力を持つ作品であった。

そして同年12月、同作のヒットを受け、東宝はゴジラの制作を発表。

「日本産ゴジラ」が復活すると知った僕は喜びながらも、内心大きな不安を感じていた。

FW以降、戦隊シリーズや仮面ライダーが新たなファン層を獲得する一方で、ゴジラやガメラ、ウルトラマンなどの巨大特撮作品の人気は急速に衰えていった。

ゴジラのブランド力は著しく低下しており、もはや話題になることもない。

そんな状況でゴジラ映画を上映しても、きっとマニア受けはするだろうけれど一般ウケや一大ムーブメントを起こすようなことは無理であろう、そんな考えが大多数であった。

懸念のもう一つがハリウッド映画、しいてはレジェンダリー版ゴジラの存在である。

今やハリウッドの映画技術は最先端を走っており、その技術力だけではなく予算、製作機構といったあらゆる面で日本の映画業界よりも恵まれている。そしてハリウッドでは、日本人的な感性を取り入れることにも成功した。

レジェンダリー版「GODZILLA」やギレルモ・デル・トロ監督作品「パシフィック・リム」では、放射熱線のシーンや

エルボーロケット、チェルノアルファなどのデザインなど「あ～、この監督、ここわかってるな～」というシーンや設定が多々存在する。

日本映画特有の「味」や「ミソ」までも、ハリウッドは自分たちの要素にしたのだ。

もはやハリウッドは、ゴジラや巨大ロボットまでも自分たちのものにしてしまった。

その中で日本映画は、どうやって世界各国の映画と対抗していけばいいのか。

この問いや不安感に対し、「シン・ゴジラ」は全く新しい切口で鮮やかな回答を出した。

「シン・ゴジラ」初見時、僕は衝撃の余り内容や作品に対して冷静に考えることができなかった。

そして衝撃もだいぶ落ち着いた今、シンゴジラに対して自分の考えをまとめた結果、「この作品は初代ゴジラのリポートでもあり、レジェゴジへのアンサーでもある」という考えに至った。

以下では、なぜ僕がそのような結論に至ったのかを述べる。

まず「初代ゴジラのリポート」という点である。

ゴジラは昭和、平成、ミレニアムとリポートを繰り返し、シリーズ独自の世界観やゴジラ像を打ち出した。

だがそれらの作品にはある一つの共通点がある。それは、「54年の初代ゴジラが存在する」という点である。

V Sシリーズの始まりともいえるべき84年版「ゴジラ」では、30年ぶりにゴジラが日本に上陸する。

ミレニアムシリーズは各作品ごとに異なる世界観や設定を持つものの、どれも過去のゴジラの存在を踏まえている。今までのゴジラの続編は初代ゴジラの上に成り立っていた。

しかしそれがあつた一つの問題を引き起こした。

ゴジラを持つイメージの形骸化およびワンパターン化である。

言うなればゴジラは、「初ゴジの亡霊」にずっと憑りつかれ続けていたのだ。

戦後から9年経過した54年、初代「ゴジラ」が公開される。

その中でゴジラは荒ぶる猛威という面だけでなく、核の被害者、災害や戦争の象徴、人間に殺される悲劇の主人公と、多角的に描かれていた。

そして初ゴジを踏まえたV Sシリーズやミレニアムシリーズで、ゴジラの「何物にも負けず力強い神のような、それでいてどこか悲しみを背負った存在」という固定観念ともいえるべきイメージ像が完成され、どの作品もそのイメージを大切にされながら制作されていった。

だがイメージを重視しすぎ、初代ゴジラに近づけようと意識するあまり、かえって初代ゴジラの「本質」から離れてしまったり、ストーリーに唐突なうさん臭さや説教臭さが出てしまうという弊害が生じてきた。

しかし、シンゴジラは前述したような固定観念までも利用した意外なアプローチで、初代ゴジラをリポートさせるこ

とに成功した。

シンゴジラは、デザインにおいて今までのゴジラと大きく異なる。全体的には初代に近い体形ではあるものの、その放射熱線を噴出できる尻尾は余りにも長く奇抜で、表皮は焼けたようにグロテスクだ。

そして精悍さは程遠い乱杭歯や蛇のように開く顎に人間のような三白眼。そして何よりも大きく変化する形態。

シンゴジラには、VSシリーズやミレニアムシリーズのゴジラにあった格好良さやヒーローらしさは完全に排除されており、初ゴジやGMKゴジなどの「怖いゴジラ」と比較しても極めて異質の存在だ。

正直なところ、ゴジラの中で一番気持ち悪い。

そんなデザインのおかげなのだろうか、ゴジラが町を破壊していくシーンはいつものゴジラ映画なら

「いいぞー、もっとやれ」といった気分になるものの、シンゴジラが東京を蹂躪するシーンでは、

「嫌だ、もうやめてくれ」という恐怖と嫌悪感が入り混じった感情を抱いてしまった。

その時僕は気づいた、そうか、この恐怖感や嫌悪感こそがこそが「初代ゴジラ」の「本質」だったのではないのだろうか。

1954年当時、初代ゴジラを見た人が感じた畏怖や衝撃は計り知れないだろう。

いま僕たちが持つ格好良くてどこかユーモラスな「怪獣」の概念はほぼなかっただろうし、映像技術も今より発達していなかったからだ。

しかし今ではCGなどの技術も発展し、僕たちの映像に対する目は肥えてしまった。

同時に怪獣はキャラクター化され、怪獣に恐怖感を感じることは少なくなった。

僕らが失ったはずの怪獣、ないしは異形の存在に対する恐怖感や嫌悪感、シンゴジラは進化した映像技術と

そのグロテスクな姿、そして形態変化という斬新なアイデアを以て、初代ゴジラの持つ恐怖感をよみがえらせた。

ストーリーも設定も初代とは大きく異なるシンゴジラは、言うなればゴジラの大事にしていたイメージを完全に壊すことによって、ゴジラが本来持つ恐怖感や畏怖を取り戻すことに成功したのだ。

そして「レジェゴジへのアンサー」という点からも僕の考えを述べることにしたい。

そもそも「シン・ゴジラ」という作品は2年前のハリウッド版「GODZILLA」がなければ生まれることのなかった作品だ。

そしてこの一見無関係に見える2作品は、実は陰陽のような対をなし、お互いを補完しあうような構造になっている。

その対比関係は、登場するゴジラそのものから説明することができる。

前述したようにシンゴジラのデザインは極めて異形である。

顔のようなものが見える尾や不揃いに生えてる足の爪など、放射能による奇形とも読み取ることができる。

一方でレジェゴジのデザインはどうだろうか。

そのボディは筋骨隆々としており、力強さを感じられる。

シンプルでつるんとしたデザインや甲冑のような表皮は、生物の持つ完全な黄金比のようなリアリティと美しさを醸し出している。

2匹とも同時期に作られたゴジラなのに、なぜここまで対照的なのであろうか。

思うに、デザインのコンセプトの違いがこの対比を生み出したのではないのだろうか。

レジェゴジは生物としてのリアリティーと、日本的な感性によって作られたゴジラである。

作品の中でゴジラはペルム紀の生物の生き残りであり、生態系の頂点でもある。

そして同時に荒ぶる自然の象徴、核のエネルギーの化身という表現も劇中でされていた。

ゴジラの持つヒーロー像を大切に、ハリウッドの最先端の技術によってあたかも現実にいるようなゴジラを作り出す。

結果、レジェゴジは良くも悪くもヒーロー的なゴジラとなった。

シンゴジラの設定は、太古から生き延びた海洋生物が放射性廃棄物により変化した「完全生物」である。

一個体で進化を繰り返し、様々な形態へと変化する。そして牧教授もゴジラの一要素となったことを匂わせるシーンも存在した。

ここまで奇抜な設定になったのは、レジェゴジが従来のゴジラ像を基に作られたゴジラだからではないか。

結果、レジェゴジでは表現しきれなかったゴジラを、シンゴジラは表現することに成功した。

また日本のCGや映画業界もシンゴジラのデザインコンセプトに影響を与えただろう。

レジェゴジは最新鋭のCG技術と生物学的にリアルなデザインで圧倒的なリアルさを打ち出した。

一方で技術も予算も限られている日本では、ゴジラ本来の持つ「恐ろしさ」や核を彷彿とさせる「奇形」を全面的に押し出し、政府や自衛隊等の圧倒的リアリティでゴジラのフィクション性をカバーするという手段を取ったのだろう。

そのことを一番的確に表現しているのは、「対」というキャッチコピーではないだろうか。

書き出すにつれて色々と長くなってしまったが、とにかくとんでもない映画だった。

徹底したリアリティーにタバ作戦の自衛隊の雄姿。

魅力的な登場人物の数々にヤシオリ作戦の爽快感。

そして何より『Who Will Know』をバックに放射熱線を吐くあまりにも美しすぎる名シーン。

そしてシン・ゴジラは異例のヒットを遂げた。

公開初日にシン・ゴジラを始めて劇場で見に行ったあと、僕は劇場限定ソフビを買った。

サイズは小さくなっただけに値上がりしていたが、クリアレッドに金ラメというカラーリングが、

まさに劇場限定って感じがした。

そして、「ああ、スクリーンに本当にゴジラが帰ってきたんだな」としみじみ感じ、12年前に思いを馳せた。

そう、12年前に朝日へと旅立ったゴジラは、今再び銀幕へと帰ってきた。

それも興行収入60億突破といううれしい誤算も引き連れて。

怪獣王が帰ってきた、それもパワーアップして。まさに怪獣王の凱旋だ。

帰りの電車の中でツイッターを見ていた僕は、シンゴジラが9月8日にタイで公開されるというニュースを目にした。

今タイに単身赴任している父はどんな反応をするだろうか。

やっぱり蒲田くんにびっくりするかな、それとも「こんなのゴジラじゃない」って言ったりするのかな、

はたまた大絶賛するのかな、

そんなことを考えながら、また父さんとゴジラ映画を劇場で見れたらなと、ちょっとセンチメンタルな気持ちになった。

ゴジラは続くよどこまでも(Yuusuke)

ゴジラは続くよどこまでも

文：Yuusuke(@NexusMp11)

！警告！ ここから小学生のような感想が出現する可能性があります。

2004年、某児童向け雑誌にゴジラとミニラが海に帰っていく写真が掲載されていました。そこには「彼らは海に帰って行った。だが…」のような文章が。今作でゴジラが終わるかもしれない…と心配していた7歳の自分は、これを読んで「あ、大丈夫だ。ゴジラは来年、また帰ってくるんだ」と考えていました結果、特報は流れず。がっかりしながら月日が流れました。

そんなこんなで2016年7月29日午前11時。私は映画館の前で午後より上映する"ある映画"を楽しみに待っていました。試験期間中だったのにも関わらず……。こうして、12年間待った国産ゴジラ最新作『シン・ゴジラ』を観賞しました。

そこにいたのは確かにゴジラでした。特徴的な鳴き声、人類を見下ろすかのような目、びっしりと生えたゴジラのシンボルマークでもある背びれ……。姿・形は違っていても、私たちが待ち続けた「日本のゴジラ」の帰還を感じました。物語は全体的1984年に公開したゴジラをさらにリアル路線にした感じと言ったところでしょうか。あの映画の物語にも政府の対応が頻繁に出てきましたから。空想兵器を無くし実際に存在する兵器だけを登場させ、ジャーナリスト等を主人公サイドに置かないようにしたのが『シン・ゴジラ』のように思えます。「巨大生物が出現する」という事態など誰も予想なんて出来ません。それも、いきなり尻尾のようなものが現れてしまうという全くの「想定外」。その想定外の事態にどう立ち向かっていくのか…その過程をどう描くのが、公開前から話題になっていました。その結果はみなさんご存じでしょう。

今作の大半を占めるのは「会議シーン」です。公開前は一般受けが悪そう…という不安が渦巻いていましたが、見てびっくり。「意味のない会議シーン」なんて一つもありませんでした。逆に、こんなに複雑な会議や手続きしないといけないの?!という発見もあつたくらいです。言い換えれば事態に真剣に向き合っているということなのでしょう。彼らがどう動くかで国民の未来が決定してしまうわけですから。安易に情報も発表してしまうとパニックが起こったり、国の利益にも影響が出る。だからこそ憶測で判断するのは危険なのでしょうね。その直後に尻尾が出現し、虚構だったものが現実になってしまったわけですが。「諦めず、最後までこの国を見捨てずにやろう」というセリフが公開前から出ておりましたが、あの場面で言ってたんですね……。納得のセリフです。このセリフが流れた後、ゴジラを倒すために日本が頑張るわけです。印象に残ったのは「置かれた状況で自分のベストを尽くそうとしている」という点でした。「もうダメだ…おしまいだ…」という展開には絶対させないという熱意を感じました。特に良かったのは平泉成演じる総理代理です。

彼は登場時から周りに振り回されているだけの人物でした。

外遊から帰ってきたら、偉い人みんな死んじやったから代わりにあなたが総理になってね、ですよ？

主役がケガして病院に行ってしまったから、今日の舞台あなたが代わりに出て！と同じ、いやそれ以上の無茶ぶり。

でも、国を背負う誰かがいないと成り立ちませんもんね……。

そんな彼が、フランスに核攻撃の延期を進言するというくだり感動しました。

ヤンオリ作戦が目立ってしまいますが、彼も戦っている人々のために陰ながら頑張っていたということでものね。

存在意味の無い人なんて一人もいませんでした。

今作のもう一つの特徴は「ゴジラとはいったいどのような生命体なのか」という部分を、真剣に描いた作品だということでしょうか。

今までのゴジラ映画にも彼は何者なのか？という疑問が何度も出てきてはいました。

今作では彼がどのような遺伝子構造を持っており、エネルギー摂取はどうなるのか等、詳細な部分まで巨災対メンバーが解明していきます。

これも「ゴジラ」というキャラクターをもう一度ゼロから作り上げたからこそできるのではないのでしょうか。

シンという文字に「新」という意味もある通り、「まったく新しいゴジラ」を見事に作り上げていたように思います。

かつての伝統を守ることも大事だが、壊してはまた新しく創っていくことで、新たなゴジラが生まれ、今を、そしてこれからを生き残っていけるんだと気付かされました。

ゴジラそのものは大きく変化しましたが、音楽はみなさんおなじみの伊福部昭BGMが使われておりました。

みんな大好き蒲田君が品川君に進化する際に、初代ゴジラから「ゴジラ上陸」、鎌倉から出現し再び首都を目指すシーンではキングコング対ゴジラから「ゴジラ復活す」、メカゴジラの逆襲から「ゴジラ登場」が。

選曲が渋すぎませんか……庵野さん……。

そして、みなさんがもう興奮しまくった、あのヤンオリ作戦に宇宙大戦争の「宇宙大戦争マーチ」。

もう60年近く立っている曲ですよ？今聞いても全然色あせてないですよ。

そしてあすげえ作品だった……となっている所にエンドロール。

なんでしょうああの幸せな時間。

もはや実家のような安心感を感じる初代ゴジラのメインテーマ。

ゴジラ、ラドン、モスラのテーマが流れる三大怪獣地球最大の決選のオープニング。

もはやゴジラのテーマと並んで、伊福部昭といえばコレ！というくらい感じる怪獣大戦争マーチ。

あれ……尺余ってね？後どこで使ったんだっけあの曲と置いていたら……

ジャジャジャジャン！ ダーンダーンダーン ジャジャジャジャン！

そこで流れるんですかあああ！！

某漫画家ではないですがやりやがった庵野おお！！

という感じでした。こんなの……こんなの……

感動するのに決まってるじゃないか！！

それで最後のデーンの部分ででっかく「終」の文字だもの。

今思えば映画の終わりにあのマークが出る映画は本当に少なくなってきましたからね。

あのマークのおかげで最後まで「あ、自分は今、東宝特撮を見てるんだ」という実感が持てました。

自分の感想としては、この映画は「今までにないゴジラ映画」になっていて非常におもしろかったです。

しかし、今までのゴジラ、そして今後作られていくであろう特撮映画が心配でもあります。

「リアル路線」の怪獣映画はあくまでも数ある怪獣映画のカタチの一つにしか過ぎません。

そもそも「これが本当の怪獣映画」という正確な答えなんて決まってませんもの。

シン・ゴジラは「政府関係者を主人公にしたシミュレーション要素を取り入れた怪獣映画」という、数あるうちの一つの選択肢であったと私は捉えています。

最後に、巷では「これ子供に見せてもいいのかしら……」という意見も聞きます。

確かにゴジラ怖いデザインしてますもんね……。

でも私の意見としては見せてあげるべきだと思います。

「子供には会議シーン退屈するんじゃないかしら・・・」「あんなの見せたらトラウマになってしまうのでは・・・」とおっしゃるかもしれません。

だからこそ、「子供の時に見せておく」というのが重要だと思うんです。

小さい時に見た物ってある日突然思い出すことがあるんです。

確かに今のままだと難しく感じるかもしれません。

しかし、成長した後に見ると違った印象になると思いますし。

ああ、あの時あんな作品見たよな。すごく退屈に感じたけどどんなやつだっけ・・・

と、思い出すきっかけが必要なんです。

もし今、シン・ゴジラでゴジラにハマってもらえれば他のゴジラ作品を見てもらえるかもしれませんし・・・。

ゴジラが今まで生き残ってこれたのも、その時代に生きる子供達がゴジラを見て好きでいてくれたから。

『シンゴジラ』に触れた彼らが新たなゴジラファンになることを期待します。

ゴジラは永遠です！！

うる覚え！明日から使いたい「シン・ゴジラ」名台詞集③

さらに進化した…ゴジラ第四形態です！

(解説)

このセリフからのメカ逆のテーマが実に最高である。
そこから更に、下記の閣僚達のリアクションに繋がり、これを我々は待ってましたと言わんばかりである。新しいゴジラ映画誕生を実感する瞬間である。

こりゃ大事になりそうだ

何で、またこっちに来るんだ！

(解説)

GMKの「この国は怪獣だらけか！」を彷彿とさせる。
なぜ怪獣は日本にばかり現れるのか？なぜ東京を目指すのか？
怪獣映画の暗黙の了解であり、なかなかメタな雰囲気漂う味わい深い台詞である。

アパッチの30mmに切り替える。もう少し様子を見る。

(解説)

ゴブラに搭載されている機関砲は20mm口径。アパッチに搭載されている機関砲は30mm口径。

1万6千発の機関銃を受けて傷一つ付かないとは・・・

武器の無制限使用を許可します。

ミサイルでも死なないのか・・・

気落ちは不要。国民を守るのが我々の役目だ。

攻撃だけが華じゃない。住民の避難を急がせろ。

何をする気なんだ??

無いものを当てにするな！！

今残っているもので、やれることをやるだけだろう！！！！

まずは君が落ち着け。

出世は男の本懐だ。

そこに燃えんとは君、どうして政治家になった？

政界は敵か味方しかいない。シンプルだ。性に合ってる。

諦めず、最後までこの国を見捨てずにやろう。

あ〜、伸びちゃったよ。やっぱり、総理の仕事って大変だな〜……。こんなことで、歴史に名を残したくは無かったな〜。

彼は最後に何を好きにしたんだ？

・・・折り紙・・・食べてないんだ・・・

“ゴジラ凍結作戦”、というのも子供っぽいですし・・・
”ヤシオリ作戦”にしましょう

(解説)

『日本書紀』で須佐之男命が八岐大蛇を討伐する際、八岐大蛇に飲ませたとされる「八塩折之酒」が由来と思われる。矢口の教養が垣間見れる演出である。

礼は要りません。仕事ですから。

はいはい。わかってますよ。
多種多様ですな。人の世は。

戦後の日本はずっとかの国の属国だ
総理。そろそろ、好きにされたら如何ですか？

ヤシオリ作戦遂行に際し、放射線流の直撃や急性被爆の危険性があります！ここにいる者の生命の保障はできません。しかし、どうか実行して欲しい！わが国の最大の力は、この現場にあり。
自衛隊はこの国を守る力が与えられている最後の砦です！
日本の未来を、君達に託します！

この機を逃すな！無人在来線爆弾、全車投入！！
この国はスクラップ&ビルドでのし上がってきた。
今度もまた立ち直れる。

せっかく崩壊した首都と政府だ。まともに機能する形に創り変える責任をとる誰かが必要だ。そして、政治家の責任のとり方は己の進退だ。だがまだ辞めるわけにはいかない。事態の収束にはまだ、程遠いからな。

(解説)

最後の尻尾の意味は……。続編はあるのか……。

終

シン・イベント日記(吉田圭一)

シン・イベント日記
文：吉田圭一(@yossan64)

仕事を辞めた…。
しかし、辞める時には「これから先、生活はどうなるのだろうか？」という不安よりも、「金曜日が公開日のシン・ゴジラを会社に遠慮する必要もなく、公開初日に朝一で見に行ける」とか「もしかしたら財布に壊滅的打撃を喰らいながらも、関東方面で開催されるイベントにも行けるんじゃないか」という喜びの方が圧倒的に勝っていた。

はじめまして。
いきなり変な話題で始め、申し訳ございません。
吉田圭一です。
この度、「シン・ゴジラ」をテーマに原稿を書かせていただくことになりました。
そこで私が夏に参加したイベントに関し、ただ淡々と書かせていただくことになりました。
読みづらい点が多々あると思いますが、しばしお付き合いをいただければ、幸いです。
(※日付はイベント開始初日ではなく、参加した日です)

7月26日(火) 大阪・戎橋 「シン・ゴジラ」公開直前イベントin大阪

これが今夏一番に参加した「シン・ゴジラ」のイベントであった。
公式HPに400組800名様ご招待とあったイベントで直前まで日時以外の情報は全てシャットアウト。
にも関わらず戎橋周辺は到着した頃にはひと・ひと・人！



会場内に鳴り響くのは戎橋周辺の広告の音声とシン・ゴジラの音楽！
屋外のイベントだからか、スピーカーからは超大音量で流れる音楽、そして天空から響く広告音。
「広告うるせえ」と思いながらも双眼鏡を準備し、待つこと数十分。
音楽が止み、陽気な広告音だけが響く会場。
そこに現れたのはゴジラでも長谷川博己でも石原さとみでもなく、MBSアナウンサー大吉洋平！
MBS最頂の私にすれば、それだけで十分喜ばしいイベントでした。
イベント自体は時間の都合もあってか「是非、シン・ゴジラご期待下さい」というお約束的な内容で終わってしまいましたが、熱を上げるには十分すぎるイベントでした。
今にして思えば公開初日の朝一はイベント会場よりもっとも近いTOHOシネマズなんばで見たことはある意味、何かしらの因縁があったのかもかもしれません。

7月29日(金) TOHOシネマズなんば・TOHOシネマズ西宮OS 「シン・ゴジラ」

公開初日。「関西圏」「4DX」「朝一」…等の条件を考慮すると一番最初はTOHOシネマズなんば、となりました。
真っ新な状態で拝見したく、前日よりツイッター等のSNS・ネットはもちろん社会との関わりをほぼ断ち切って挑んだ初日です。
上映前にグッズを買い込み、いざ劇場内へ。
映画の感想に関し詳細は割愛しますが「第二形態、気持ち悪い。4DXの水邪魔。だけどもツチャ面白い！！」
そんな感じでした。
昼、時間があったので別の映画を見てから、夕方には普段お世話になっている三和市場の有志と共に西宮OSへ。初日に2回見れる！この時ばかりは、仕事を辞めた1ヶ月前の自身に対し賞賛を送りました。
さあ、こうなれば全身全霊でシン・ゴジラである。
ただ、シン・ゴジライベントに関しては三和市場の怪獣裏参道、退職祝いの台湾家族旅行・そして京都みなみ会館の超大怪獣大特撮大全集DXを挟み、8月15日まで待つことになる。

8月15日(月) 池袋周辺 ゴジラATTACK出撃! G-FORCE

これはナンジャタウン内のアトラクションなので、イベントかどうかは考えどころではあるのですが、

「面白かったからいいか」という思いで記載します。

金欠旅行の強い味方「青春18切符」を手に入れ、行ってきた東京イベント旅行。

東京の友人と池袋駅で待ち合わせを行い、まず行ったのがゴジラではなく、サンシャインシティで行われている「ウルトラマンフェスティバル」。今年はウルトラマンの放送50周年の記念すべきメモリアルイヤーでもあるのです。

そこで展示されていたジオラマで「吉田」さんのマイホームが破壊されていたり、いつも楽しみにしているライブステージで子供たちが送る「ウルトラマンがんばれ!」の声援を聞きながら「もし、ウルトラマンがうつ病にかかっているこの声援を送ったら大変な事になるんだろうなあ」と思うと涙が溢れてきたりしながらウルトラワールドを堪能した。

その後は下のナンジャタウンで行われている「ゴジラATTACK出撃! G-FORCE」へ出撃です。

平日でありながらも夏休み中ということもあってか50分待ちの行列でした。

しかしその間にナビゲーターの博士から淡々と説明を受けたり、友人と話をしたりなんだかんだしていると時間というのは早く過ぎ去るものです。

アトラクションはゴジラを倒す兵器の実体験イベントに参加し、シミュレーションをしていると本当にゴジラが出現。ゴジラにやられる前に倒す!という内容です。

文字にしてしまうと単純なものです、ゴジラは熱戦で攻撃してくるし、スマホのようなものが搭載されたゴーグルで本当にゴジラが目の前に迫ってくるし、こちら腕を振るだけで発射できる便利な最新メーサー兵器で応戦するまさに最新技術のオンパレードです。

そして戦いの後には「けっこういい奴だったよなゴジラ」そんな言葉がココロに浮かぶアトラクションでした。

ただそんな興奮のバトルなので、全力でゴジラと戦うと腕が痛くなりました…。

何事もほどほどが一番なのです。

さて、ここで行われているのはアトラクションだけでなく、食事もゴジラ怪獣コラボメニューが展開されております。メニューをモスラにするかキングギドラにするか悩みに悩んだ結果キングギドラに決めたのですが、こういう所のコラボメニューって「金額だけ高くて、量は少なくて味も美味しさ控えめだろ」と高を括っていると全く違いました。

金額はそれなりにしたが、量も味もそこそこいける!まさに140m級の量と味です!!



池袋と言え、それだけではありません。

駅前のロッテリアもスペシャルコラボ中なのです。

地下にはシン・ゴジラフロアが展開されており、歴代のポスターとシン・ゴジラの巨大ポップそして映画の予告がループで流れる。いい意味で落ち着かない仕様になっております。

そんなご満悦な状態で1日目は無事に終わりました。

8月16日(火) 銀座 西川伸司個展【ゴジラ総進撃】

この日はJRのホームで朝から見たくない文言が始まってしまいます。

「台風の接近」。その数日テレビや新聞等まったく見ていなかった私はここに来て大型台風が近づいている事実を知ってしまう…。

まあ東京に来るのは夜遅いって言うてるし、早めに帰ればいいのか、と途中傘を購入し、その日はスタートしました。

さて、この日のメインイベントは銀座のспанアートギャラリーで開催中の西川先生の個展です。

西川先生と言え、平成ゴジラシリーズの怪獣を多くデザインされただけでなく、私がマンガを読むきっかけになった作品「じじばばファイト!」のマンガ家であり、何よりも三和市場のオリジナル怪獣「ガサキングα」「ガサキングβ」のデザイナーの大先生です。

そんな私の人生において大きな影響を与えてくださった先生の個展が開催されている!

初日は無理にしても絶対に行きたい!!そういうイベントであり、この旅の大きな目的でした。

会場がメトロの出口近くであり、少し雨が降り始めていたが大きな影響はなく、会場に入ると中には先生が描かれたイラスト等が掲げられ1点1点をじっくり楽しめる展示でした。

展示物自体は、内容が変わり1度来場したお客様にも何度も楽しめるサービス精神旺盛な先生らしい内容であったそうです。

そこで前回の個展で販売されツイッターの画像を只々指をくわえて見ることしかできなかった特製コースターを購入。その後は秋葉原と中野へ行き、帰りの電車で読むマンガを購入し、その日の予定も無事終了……しなかった。

午前中に行っていた神社の資料館とギャラリーで時間は予定よりも大幅に遅れた上に中野では閉店ギリギリまで遊んだ

挙句、食事でラーメン替え玉2杯をのんびり食っていた為に前日から泊めさせてもらっている友人の家の最寄り駅に着いた時には時間はすでに夜10時。

台風とドンピシャで遭遇したのです。

100円の傘でその日に買ったマンガ20冊そして何よりも重要なコースターを死守しながら移動をしたため、駅を出た瞬間から全身びしょ濡れであった。

もちろん家に着くと同時に友人に怒られたのは言うまでもありません…。

8月17日（水）横浜 大ゴジラ特撮王国YOKOHAMA

前日までの台風も見事に過ぎ去った8月17日。

この日は初日を迎える「大ゴジラ特撮王国YOKOHAMA」に参戦。

諸事情で早めに会場に着き、荷物をコインロッカーに預けた後に会場の近くのマクドへ。

ちなみにその店の店員さんはシン・ゴジラの尾頭さんからテキパキさを取ったような感じの人でした。

食事を終え、開場まで待つこと数時間。外にはほとんど人が集まり、中ではバタバタ。

その間の時間は「シン・ゴジラWalker」を読んだり、たまたま前に並んでいた人と何やら雑談をしたり、気楽に待っておりました。

そしていよいよオープン！という前にオープニングセレモニーが開催。

手塚昌明監督と宝田明さんの挨拶。

プレス向けに行われたようでセレモニーはじっくりと見るができなかったのですが、声を拝聴することはできました。そしてセレモニー終了後、遂にオープン！！

とりあえず、展示には入らずにグッズコーナーを漁り、今回のイベントのパンフをゲット！

昨年金沢には参加できていないので、よく分からないのですが、内容も一昨年よりパワーアップ。

ただ最初に川北監督の挨拶が載っていないのを見ると、改めてもう亡くなったんだ…ということを実感しました。

そんな想いに浸りながら目当てのモノも購入し、ショップ内をグダグダと散策していると、そこに現れたのは尾形秀人！ではなくつい先ほどまでセレモニーに出席されていた宝田明さん！！

声をかけ、写真の撮影にも応じて下さり、非常に気さくであると同時にどこか特別なオーラを感じる方でした。

そして、ショップ内をグルリと見渡すとそこには手塚監督のお姿が！

過去に映画の上映イベントでトークを拝聴したり、サインをいただいたりしたことはありますが、こんな身近に初めて感じました。

さて、時間も過ぎ去り遂に展示会場の中へ。

ゴジラを完全に抹殺した酸素破壊剤を見た後、出迎えてくれるのが新撮のウェルカム映像。

映像を何度も見返しメイン展示にGO。

初公開のモノもある、と聞いていたので「シン・ゴジラ関連のものだろう」と思っていたのですが、

それ以外にも初めて見る展示物がワンサカワンサカ。

しかもそのほとんど全てで写真撮影がOK、ということで会場に入る前からあがっていたテンションも最高点までドカドカ高まっていきます。

しかも今回の展示はほぼ全てジオラマになっており、普段以上に撮りがいが非常にある展示内容でした。

そのせいもあってか、出発前にフル充電にしていた携帯の電池もすぐになくなり、その日に泊めさせてもらう友人との連絡手段も途絶える結果となりました。

会場さえ出なければ、何度でも見れるので、一つ一つじっくり見ているとあれよあれよ、という間に時間は過ぎ去るものです。

とりあえず、携帯の充電をせねば、と携帯ショップを探すが近くにはなく重い荷物を持って数キロ歩くのか…と絶望していると朝に行ったマクドに「コンセントあります」の看板。

いやぁマクドというのはなかなか便利なものです。

最低限の充電を行い、その日は大田区の友人の家へ向かうのでした。

8月18日（木）大田区役所「シン・ゴジラ」パネル展 大田区にゴジラ来襲！

海ほたる シン・ゴジラx海ほたるキャンペーン

「長かったようで短い」とはよく言ったもので、東京ツアーの最終日。
朝一で大田区梅屋敷の友人の家を出発すると、大田区では街でゴジラと戦っていました。



区役所の観光課で聞くと、地元の商店街が中心でこのように盛り上がっているそうです。

さらにこのような旗の他にも大田区の広報紙にもシン・ゴジラ。

そして役所でもシン・ゴジラ。

この日より『「シン・ゴジラ」パネル展 大田区にゴジラ来襲！』というパネル展示が開催。

撮影当時の状況をパネルにしての展示でした。

こちらも初日、ということで地元のケーブルTVが取材に来ておりました。

ここで知り合ったサラリーマン風の男性と「今度のゴジラって面白いの？今まで観たことないんだけど観てみたいな」という話をしておりました。

シン・ゴジラ、様々な世代で注目されているんだなあ、と体感する瞬間でした。

さて、私がこの展示に来たのには一つ目的があり、知り合いでシン・ゴジラのエキストラ撮影に参加をしていた方がおり、その人の写真を探すことでした。

ただ、人を探すのは大の苦手ですので、「いたら面白いなあ」というくらいの感覚で探していると、すぐに見つかりました。

小さく写っているのではなく、写真の一番前でカメラにはっきりと写っている！イベント見学に来たお客さんの顔以外は全て写真撮影OKのイベントでしたので、全体とそのパネルをガッツリ撮り、次の目的地へ。

次の目的地、それが海ほたるでした。当初行く予定がなかったのですが、帰りの電車まで時間もあったので、川崎側から行く事に。駅の改札を出るとそこには巨大なシン・ゴジラ。

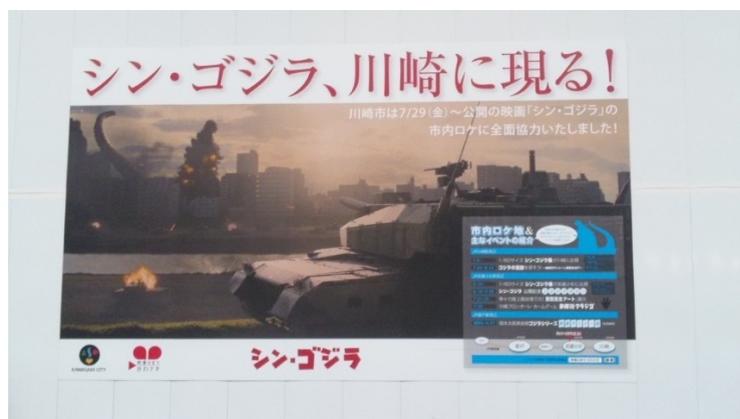


襲撃地点ではどれくらいの経済効果があるのやら…。

思わずそんなことを考えながらバスに揺られて海ほたるへ。
一昨日までの台風一過で素晴らしい晴天！というわけではなく、水蒸気が湧き上がったような曇り空なので劇中のように景色が見えませんでした。

ただ、目的はシン・ゴジラ。

PAの一部だけでやっているのか、と思っていたのですがPAほぼ全体がシン・ゴジラのコラボで至るところに展示物。実物大のゴジラの足跡（ここに立つとナスカの地上絵のようになんなのかが分からない・・・それくらい大きかった）や1/60ゴジラ・・・中でも面白かったのが1/4サイズのゴジラの手。



わずかに浮かんでいる感じなのでゴジラの手の上に乗っているような写真を撮ることは難しそうなのですが、なかなか見れるものではなく思わずずっと立ち止まっておりました。

そしてここで目的のスタンプラリー。

上の階でゴジラスタンプを1つ、下の階で怪獣スタンプを全て集めるとオリジナルグッズを貰えるという太っ腹なキャンペーン。

こうなるとゴジラスタンプは1つだけでなく全て集めたくなるもので、全てを回って総合案内へ持っていき無事にグッズもゲット。

その1つクリアファイルのデザインがなかなか良いのです。

そして売店でもゴジラグッズが売られており、そこでもまたまたお買い物。

すでに荷物がいっぱいだったので、お会計の際に1つレジに出すのを忘れてしまい、そのまま出ようとするので店員さんから声をかけられてしまう、という大失態を犯してしまいました。

そのまま警備室に連れて行かれて調書を取られてしまうのか。

そのまま次の就職先決定か！？と非常にビクビクしながら事情を説明すると店員さんも片桐はいさんのような笑顔で「荷物多いですね」とそのままレジに誘導をしてくれました。

いやはや、世の中正直に生きているとちゃんと分かってくれるんですね。

そんなトラブルをおこしている間に予定のバスは出発してしまったので、足湯でまったりと旅の疲れを取っておりました。

そして予定より1本遅れながらもバスに乗り込みそのまま川崎駅から在来線の帰路につくのでした。

このような形でできるだけお金を使わずに夏をゴジラを満喫しておりました。

映画「シン・ゴジラ」上映はもちろん関西でも映画のテーマパークや怪獣マニアにはお馴染みの特撮映画の上映、尼崎の三和市场などまだまだ怪獣ファンには嬉しいイベントが続きそうです。

また、何かの機会で目に触れることができれば幸いです。

最後にこのような機会を与えていただいた同人誌「レクシズマーレポートVol.2」の皆様、旅やイベントでお世話になった方々、そして何よりもこの読みにくい文章に最後までお付き合いをいただいた皆様、本当にありがとうございます。

非常感謝！

『シン・ゴジラ』感想(シン・岩塊提督)

『シン・ゴジラ』感想

文：シン・岩塊提督(@GVSSG1994)

オペレーション・ファイナルウォーズから早いもので12年。
当時小学生だった私も、今では社会人。
7月29日、シン・ゴジラ公開。この日をどれだけ待ち望んだ事か。
過去作品を全て見直し、準備万端。いざ、ゴジラ。

なんじゃありや。

鎌田に上陸した巨大不明生物。
立派な背鰭と尻尾、そして大まかなシルエットはあるけど、今まで見てきたどのゴジラとも違う。
思わず目をひん剥いて驚きました。
白い、デカイ、這いずってる、目が死んだ魚のそれ、手がない、エラがある(それはギャレゴジも)。
見た目のインパクトから、「ゴジ.....ラ?」となった人も多いのではないのでしょうか。
一部では汚いベビーゴジラなんて言われているような。納得。
思考が追いつく間もなく形態変化するゴジラ。小さいながら手が生え、高らかに咆哮。
あの可愛い顔で初代ゴジラの重々しい鳴き声ですから、相当な迫力でした。
しかし冷却機能が上手く働かず、身体を冷やす為に一時的に退化、東京湾へ逃れます。

そして中弛みになるかと思いきや、そのままのテンションで巨災対設置、あれが何であるかを研究。
尾頭さんマジ可愛い。

シャツを換え、一息付いた所でゴジラが鎌倉に再上陸。見た人も見てない人も知っている、あの形態に進化。
お馴染みの曲と共に、堂々の登場。拍手したくなりましたね。
タバ作戦にて、段階的にゴジラに攻撃。機銃、30mm砲、誘導弾、戦車砲も跳ね返され、残弾無し。
ほとんど効果の無いまま作戦終了。遂に、ゴジラは首都へ。
米国の爆撃機により、ようやくゴジラに有効打を与える。
さすがに効いたようで、ゴジラも反撃.....と言う名の過剰防衛。
背鰭が「紫色じゃないか!」「ああ、紫だ」と言った感じに発光。
火焰を地面に吹きかけ、細く一筋の光線に変わり、爆撃機を撃墜。
これでも足りないかと判断したのか、口を閉じ、今まで誰もやれなかった背鰭からの熱線放射。
その巻き添えを食らい、首相達を乗せたヘリは爆散。
東京の名所(銀座とか服部時計店とか時計塔とか)も次々と火の海と化して行く.....。

悪夢のような現実を突きつけられながらも、生き残った人々は諦めない。
問題点を次々と解決に導き、矢口プランは完成。ヤシオリ作戦として、ゴジラとの最終決戦に挑みます。
その間にはかの国が核を落とそうとしたり、ラーメンが伸びちゃったり、「食べてないんだ.....!」と閃いたり、
「仕事ですから」と格好いい台詞を言ったり。
あそこで偵察機を撃墜し、何故地上の人間に攻撃をしなかったのか。
理由として個人的見解を述べるなら、ゴジラに対して有効打を与えたのは全て空からの攻撃だけだったから。
だから、大して驚異にならなかった地上には全く警戒せず、空を飛ぶ物だけを攻撃したのではないのでしょうか。

ヤシオリ作戦決行。宇宙大戦争マーチにのせて、無人新幹線爆弾で先制攻撃。

新幹線大爆破をここでやるか!

不意打ちによりバランスを崩しながらも、立て続けにやってくる無人爆撃機に対し背鰭からの熱線に対応。

しかし体内のエネルギーを消耗させる物量作戦である為に、途中から熱線の発射を尻尾に変えたところで爆撃は止まない。遂にエネルギー切れになり、ゴジラは熱線を吐けなくなる。

その隙を見逃さず、周辺のビルをドミノ倒しの如くゴジラ目掛けて倒す。遂に押し倒されるゴジラ。

アメノハバキリこと特殊建機第1小隊が、転倒したゴジラの頭目掛けてまっしぐら。

建機の前にブルドーザーを配置して障害物を蹴散らすというのは、今まであったようでなかったような。

口にストロー(失礼)を突っ込み、無理矢理大量生産した結城スペシャル、もとい血液凝固剤を流し込む。

しかし30%程飲ませたところで熱線の不意打ちを食らい、第1小隊は全滅。ゴジラが立ち上がる。

これでお終いかと思いきや、今度は無人在来線爆弾なるシロモノがゴジラに向かって走る走る。

ほぼ体力を使い果たし、更には動きが鈍っていた為に、再び転倒。新しくなった東京駅に。

待ちかまえていた第2・3小隊の活躍により、徐々に体温が下がり、表皮に凍結が発生。

最低投入量を超え、全てをゴジラに注入。

最後の悪足掻きが如く、ストロー(毎度失礼)を咥えながら三度立ち上がる。

しかし満身創痍のゴジラにそれ以上の事が出来るはずもなく、断末魔を上げながら凍りついていく……………。

色々な事を考察出来る、映画としても完成度の非常に高い作品となったシン・ゴジラ。

この作品を以て、遂にシリーズ累計入場者数が一億人を突破するという、素晴らしい事もありました。

ゴジラファンの端くれとして、こんなに嬉しい事はないです。

初日にTOHOシネマズ梅田にて会社の先輩と見に行き、上映後しばらく立ち上がれなかった事は

記憶に新しい事でした。

そのまま寝屋川怪獣談話室になだれ込むまでの間、語る言葉も見つからず、それほどの衝撃を受けました。

過去作品からの音楽・効果音の流用に関してボロクソに叩いてる人もいますが、私は特に気にするところでもなく。

というか、宇宙大戦争マーチに至っては聞く度に無人新幹線爆弾が横切る姿を思い浮かべる程度には上書きされています。

ぶっちゃけた話、過去作品の流用なんて今まで何回もあったし、今更そんな事でギャーギャー喚くなど言いたい。

欲を言えば、完全新規の鳴き声は欲しかったです。

62年前に生きていた訳ではないので、断片的な情報でしかないのですが。

どうも周りの感想、罵声、評価等が初代ゴジラと同一なのだとか。

Twitter上でも何度か見かけていますが、興味深い事です。

あちらは終戦直後、こちらは日本で戦争の無い戦後。

時代もシチュエーションもまるで違う時代ながら初代ゴジラとリンクする部分を持ち合わせるシン・ゴジラ。

まさに想定外です。

それまでスーツでは出来なかった頭だけを真上を向かせる事が出来るようになり、顎の開き方も、現状実物ではなかなか難しい。

そういった意味でも、CGのゴジラにして正解だったと思います。

今まで見てきたゴジラをことごとく粉碎し、堂々とスクリーンに戻ってきたゴジラ。

事前情報をほぼシャットアウトした状態で行ったのは正解でした。

個人的見所としては、水蒸気煙が多摩川へ移動開始～東京湾へ逃れるまで。

タバ作戦終了～活動停止まで。ヤシオリ作戦前半までの3点です。

特に、品川君へ進化後の咆哮シーンです。

初代ゴジラで言う、大戸島初登場・鳥籠越しの短い咆哮に匹敵、いやそれ以上の怖さがありました。

ファンも想定外過ぎるシン・ゴジラの勢い。

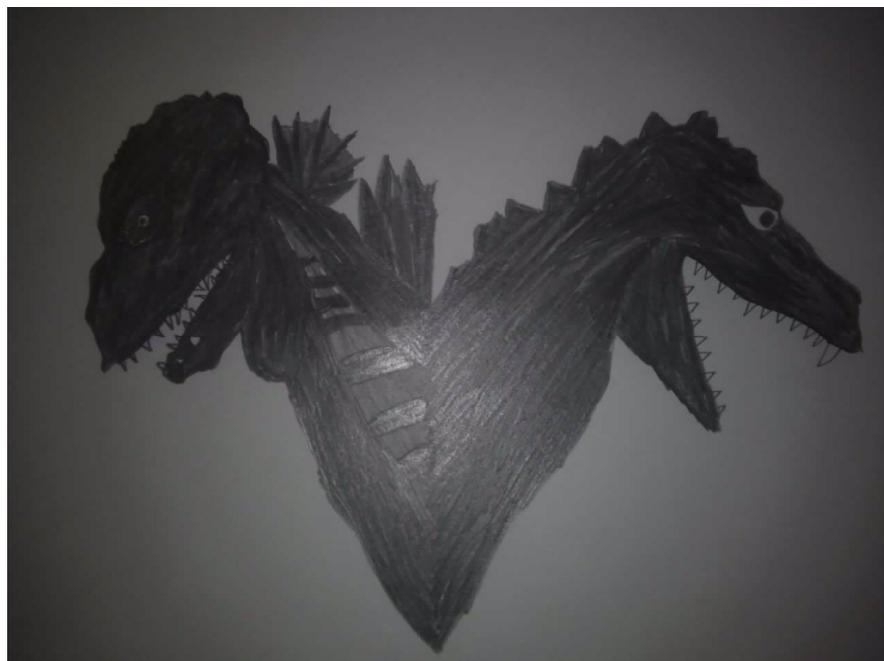
どこかで止まらなくてはいけないのを知りつつ、限界を超えてほしいと願うシン・岩塊提督なのでした。

出演者、スタッフ、若干怨みのようなものが見えた樋口真嗣監督。

そしてそれらをまとめ上げた庵野秀明総監督。

本当に、感謝しています。

ありがとうございます。



『シン・ゴジラ』感想(ガメムス・shintaro)

『シン・ゴジラ』感想

文：ガメムス=ガメラの息子(avangamera)

蒲田くんのインパクトがすごい。

あんな眼、あんな色、あんな形、あんな動き、どれもこれまでに見たことのないゴジラだった。

今までに見たことのない場面の連続、60年やらなかった事がこんなにもあったのかと、

初見時はとめどなく頭に入って来る情報量を受け止めるだけで精一杯だった。

リアリティーに溢れた今作だが、カウントダウンの延長をフランスに申し入れる際、

フランス以外にもゴジラの体内機構に関心を持つ国は多く存在するのではないかと考えられた。

自国で出した放射性廃棄物は自国で処理しなければならない。

これに頭を悩ませる国は多く、放射性廃棄物処理用に人工の島を複数の国で造ろうとする動きがあるぐらいである。

その点に置いては、もう少し描写されていても良かったのではないかと思う。

最後に、平成最大のヒット作となった今作、329人のキャストに輝かしい経歴が残り、

庵野監督をはじめとする多くのスタッフ達の今後の萌える出世を願う。

『シン・ゴジラ』感想

文：shintaro(@AsarutoraihuruN)

『シン・ゴジラ』は、過去に見てきた全ゴジラ映画30作品の中で初めて"ヤバイ"と感じたゴジラ映画である。

紛れもなく今作は"庵野ゴジラ"もしくは"樋口ゴジラ"。"蒲田君"や"最後の列車"といった要素は従来の考えでは思いつかない上に、あの二人じゃなきゃ絶対あそこまで出来なかつただろう(大汗)

確実に賛否分かれる作風だが、自分は大いに楽しめた！何よりも"内閣総辞職ビーム"がある意味最高過ぎるので、他のツッコミ所なんでもうどうでもいい！(←よくない?)

《バットマン》で今作を例えるなら『ダークナイト』と言ったところか。海外での反応が気になるところだが...

初代以外に納得のいく仕上がりの"単体ゴジラ映画"が出来た！...と言うのが自分としての最低限の考え。それだけで今は充分である！

そして『シン・ゴジラ』の勢いが、これからの邦画界に良い影響を与える事を大いに願う！

シン・ゴジラはすっごく良いぞ。



信じられません！誠に信じられません！

最初は顔が怖いと敬遠していたけれども、鑑賞を重ねていく内にすっかりシン・ゴジラ中毒になってしまいました。

まず初上陸時の第二&第三形態のビジュアル！第四形態のミサイルしこたま撃たれても全く動じない耐久性！

腕は短いけど、それを補うかのようなまほろスキのない広範囲のビーム攻撃！下手したら歴代最強！？

血液凝固材流し込まれても呑気に口開けちゃう律儀さ！ラストで見せた謎が謎呼ぶ尻尾の先！

エンドロールのVSメカゴジラメインテーマは最後まで見てくれた観客たちへのご褒美としか考えられません。

結局ゴジラは野生の生き物なのか、それとも人工生物なのか？そこは牧教授の仰っていたように好きにしる(考える)ということなのでしょうね。

そして、そんな不死身に近い相手を前にしても尚挫けない人間達！尾頭さん可愛いよ尾頭さん。

皆さん顔のドアップ率も高けりゃ、キャラまで尽く濃くてお腹いっぱいです。

同時に、普段ぶっ壊されてばかりの電車もやる時はやるのだと思われました。

最後に...**蒲田のあの子はみんなのアイドルです！(断言)**

諦めず、
最後まで
この国を
捨てずにやろう

君たちも好きにしる
私は好きにしたら



這ってでも行きます

以下、中略

Report 2

『東宝特撮聖地巡礼黙示録 2016 秋の特別篇』

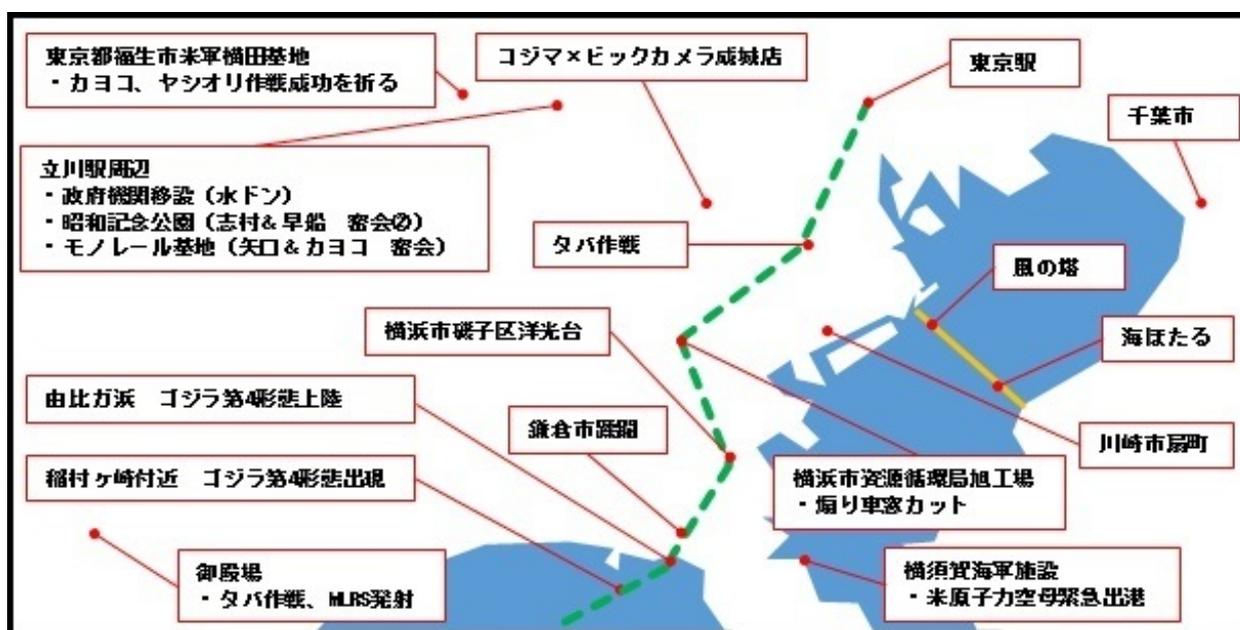
文：ぶなしめじ(@otouhu1954)



予告編公開時から早くも過熱を感じさせていたシン・ゴジラ聖地特定競争。公開後は蒲田周辺を中心として白熱ぶりをみせており、新しい聖地が増える事に対する巡礼者達の興奮が感じられる。

今回は既存の情報に独自の調査を加えた襲撃マップを作成！

本来は直接現地へ赴き、本編と寸分違わぬカットを撮影することが本懐の聖地巡礼。しかし、映像ソフトも超全集もなく、劇場での記憶に頼るしかない部分も多々あるのが現状……。しかし、ないものをもってしようがない！今やれるだけの事をやるだけ！ネット以上の情報ももしかしたらあるかもしれない。そんな今回の聖地特集！



まずは関東全域を対象としたマップから。鎌倉周辺と洋光台周辺に多くの聖地が存在している。現状、鎌倉の聖地はほぼ特定されている模様。Blu-rayが発売され次第、洋光台やタバ作戦に関する詳細な聖地特定が始まると思われる。個人的にはタバ作戦時に数カット存在した街中からのカットなんか特定してみたい。

ちなみに、レクシズマー唯一の関東在住の私は、ここぞとばかりにエキストラに応募。結果、本編に2カット出演することに成功。役柄をザックリ説明すると、米軍の爆撃の為に地下鉄に逃げ込んだサラリーマンと立川で除染車に昇る防護服の自衛隊員である。ちなみに、前者は劇場パンフにも掲載された。マジ、感動っすよ！



次に東京23区版襲撃マップ。

大規模エキストラ撮影で有名な為か、序盤で印象的な為か、俗に言う「蒲田くん」のカットはかなり特定されている模様。マンションを押し倒す衝撃的なカットも「にしきゆ」や「天龍薬局」といった看板から品川区旗の台周辺と特定。蒲田くんの通過予想ルートからは少し外れている気がする・・・。

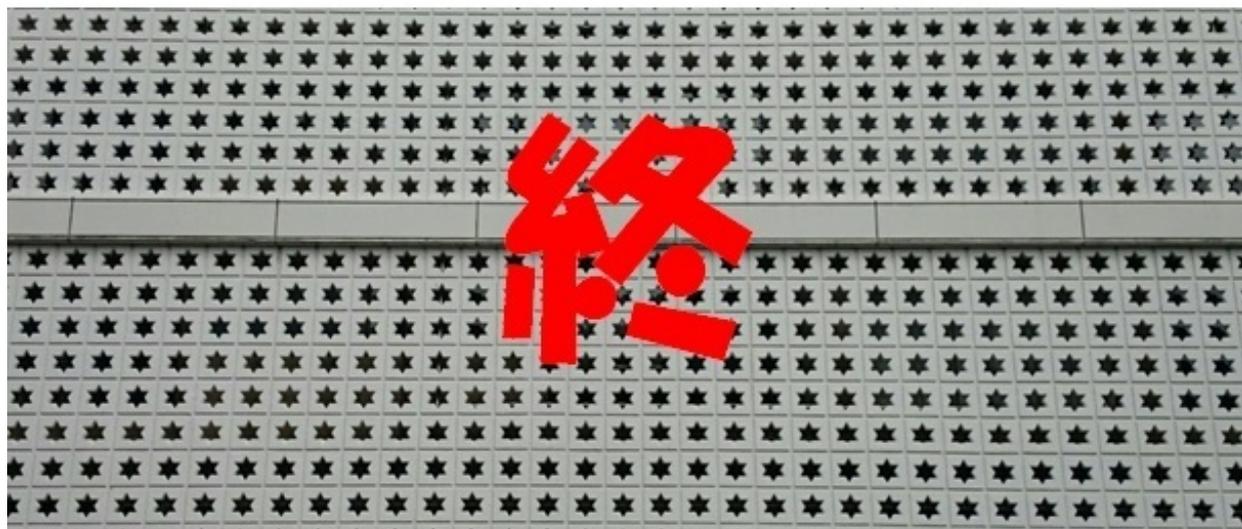
余談だが、この記事の作成の為、web上で特定済の聖地を検索してみたが、あまり特徴的でない街並みの空撮カットが軒並み特定されていることに驚いた。世の中には、どうやって探し出したのか疑問に思う程のスキルを持つ「聖地巡礼

特定班」が存在している。

私は現在のところ、タイトル画像に使用した国会前公園の階段と科学技術館以外は巡礼していない。

Blu-ray発売後には、劇中と比較しながら、じっくりと巡礼がしたい。

特に、劇中での記憶が曖昧な北品川～天王洲アイル周辺の聖地を特定&巡礼が楽しみだ。





前回の伊豆・箱根聖地巡礼から約半年。地方都市聖地巡礼に味をしめた私こと“ぶなしめじ”と“帯津さんの後輩”が再び聖地巡礼旅行を強行。
今回、舞台に選ばれたのは北の大地、北海道！

まず初めに、旅の工程を説明すると。

1日目：札幌巡礼。22時30分発根室行き夜行バス「オーロラ号」乗車。

2日目：7時根室到着。根室巡礼。22時30分発札幌行き夜行バス「オーロラ号」乗車。

3日目、7時札幌到着。正午札幌解散。

園村隼も復唱必至の0泊3日の弾丸巡礼である。

9月9日午前10時、新千歳空港で合流した我々は早速、札幌へ向かう。今回、巡礼予定の作品は『ガメラ2』『ゴジラVSキングギドラ』『ゴジラVSスペースゴジラ』そして『ゴジラ 2000』である。
以下にその成果をまとめる。



(画像1)

札幌駅から地下鉄東豊線沿いに南へ約600mの交差点。

『ガメラ2』にて出現した草体を遠方から眺めるカットはこの付近のビルからと思われる。
そう簡単に建物に立ち入りできるはずもなく、交差点より撮影した。劇中同様、左手に札幌商工会議所や丸井今井札幌本店が見える。

(画像2)

テレビ塔展望台北側からの眺め。本編のカットは写真赤枠の辺りから撮影されたと思われる。
手前で建設中の建物が、本編に近いカットを撮影できる施設であることを祈る。



(画像3)

すすきの駅4番出口。機動隊が退避してくるカット。

本編と比較すると、改装されてはいるが背景の看板などに雰囲気は残されている。

(画像4,5)

怪獣マニア達からは草体ビルでお馴染みの商業ビル「ススキノラフィラ」。

交差点中央の時計は改装された様子。



(画像6,7)

大通～すすきの間に存在する商店街「狸小路」。

本編では着地したガメラの脚が屋根をぶち抜く。本編はセット撮影。

(画像8)

大通公園の札幌テレビ塔をアオリで撮影。

ガメラ出現を目撃する渡良瀬&花谷のカットのイメージ。



(画像9)

草体ビルに近づくガメラと逃げる自衛隊員のカットやガメラが草体を引きちぎるカットをイメージ。

(画像10,11)

小型レギオンを振り払い飛び立つガメラから距離をとる渡良瀬&花谷のカット。

場所は札幌市中央区北2条西2丁目付近。アパホテルやクロスホテル札幌に面した通り。

札幌市時計台の近くで、狸小路や大通よりも北のエリアである。

前田歯科や共栄火災の看板が当時のままである。



(画像12, 13, 14)

すすきの交差点付近。「サッポロビール」「宝酒造」「麒麟ビール」「ニッカウキスキー」・・・。

小型レギオンの蜂球攻撃に苦しむガメラが酒造メーカーの看板を片っ端から破壊する。

画像12はガメラが草体へ火球を放つアングルでも使用されている。前述の狸小路ふくめ、撮影セットの完成度の高さを思い知る。



(画像15, 16)

幌平橋駅から徒歩3分の幌平橋。ガメラ出現に野次馬が集まるカット。

すすきのからは徒歩30分ほどの地点。本編では真冬という事もあり、橋廻りに雪が盛られている為、写真よりも立体的な印象がある。



(画像17)

大通付近の歩道。『ガメラ2』ラストで穂波&帯津が歩いていた場所である。

室蘭信用金庫の看板が目印である。

(画像18)

「ガメラの敵にはなりたくないよね・・・」のカットと思われる場所。画像17のカットからは200mほど離れている。劇中では穂波さんは軽く数歩駆け出しただけの様に見えるが・・・。

画像17から振り返った位置の写真があまりに本編と違う為、少し移動した所、この場所に行き着いた。街路樹で隠れているがテレビ塔も本編同様の位置に見える。

(画像19)

展望台西側の風景。雰囲気は当時のまま。ガメラの雄叫びが脳内に響き渡る。
入場料は大人720円である。今回巡礼した『ガメラ2』の聖地はここまで。
次からは、ゴジラシリーズの聖地である。



(画像20)

札幌の代名詞、札幌市時計台。『VSキングギドラ』でも『VSスペースゴジラ』でも、札幌のシーンはこのカットから始まっている。

(画像21)

大通公園から札幌テレビ塔を撮影。スペースゴジラが上空を通過したのは、この辺りのアングル。暗くて分かりづらいがテレビ塔との間に噴水が2つある。

ゴジラとメーサー車の戦闘が行われたのも、この辺である。テレビ塔は季節や時間帯でライトアップが変わる様だが、概ね21時~22時頃は特撮マニアに優しいオレンジ色の点灯となる。

ここで少し寄り道。

今回の札幌聖地巡礼でスペースゴジラの日本縦断カットを全て網羅する事に成功。
せっかくなので、次のページで一枚にまとめてみた。

おまけ！！スペースゴジラ日本縦断聖地巡礼録！！

22



札幌市大通公園

27



神戸市中央区東川崎町神戸モザイク

23



山形市文翔館

28



神戸市中央区メリケン波止場

24



山形市山形商工会議所会館前

29



福岡市東区西戸崎
ザ・ルイガンズプロイダルサロン

25



山形市霞城公園東大手門

30



福岡県 能古島

26



山形市山形駅前

31



福岡市早良区百道浜福岡市海浜公園

(画像22～31)

スペースゴジラは札幌、山形、神戸、福岡の順で日本を通過している。

こうしてみると、我ながら圧巻ではあるが、一つ残念なのが(画像24)でド真ん中に設置されたテントが邪魔な点である。これは、私が山形市を訪問した際に催されていた「山形さくらんぼ祭り」なる町おこしイベントのテントである。さくらんぼとB級グルメが堪能できたので文句は言えないが……。今回の札幌訪問時も大通公園で大量の屋台が立ち並んでおり、撮影にやや支障があった。地方都市で聖地巡礼される際は、ご当地イベント開催に注意されたい。

さて、ここからは根室の聖地巡礼。根室駅に到着した我々はレンタカーに乗り。根室周辺を調査した。



(画像32)

『ゴジラ2000』でゴジラが上陸した納沙布岬灯台。根室駅から車で約30分の日本最東端の地である。劇中でゴジラが押し倒した鉄塔は残念ながら撤去されている。

(画像33)

国道35号線、ヒキウス沼周辺。冒頭で主人公一行が車で移動するカットはここと思われる。道のカーブや海岸線の形状が一致している。

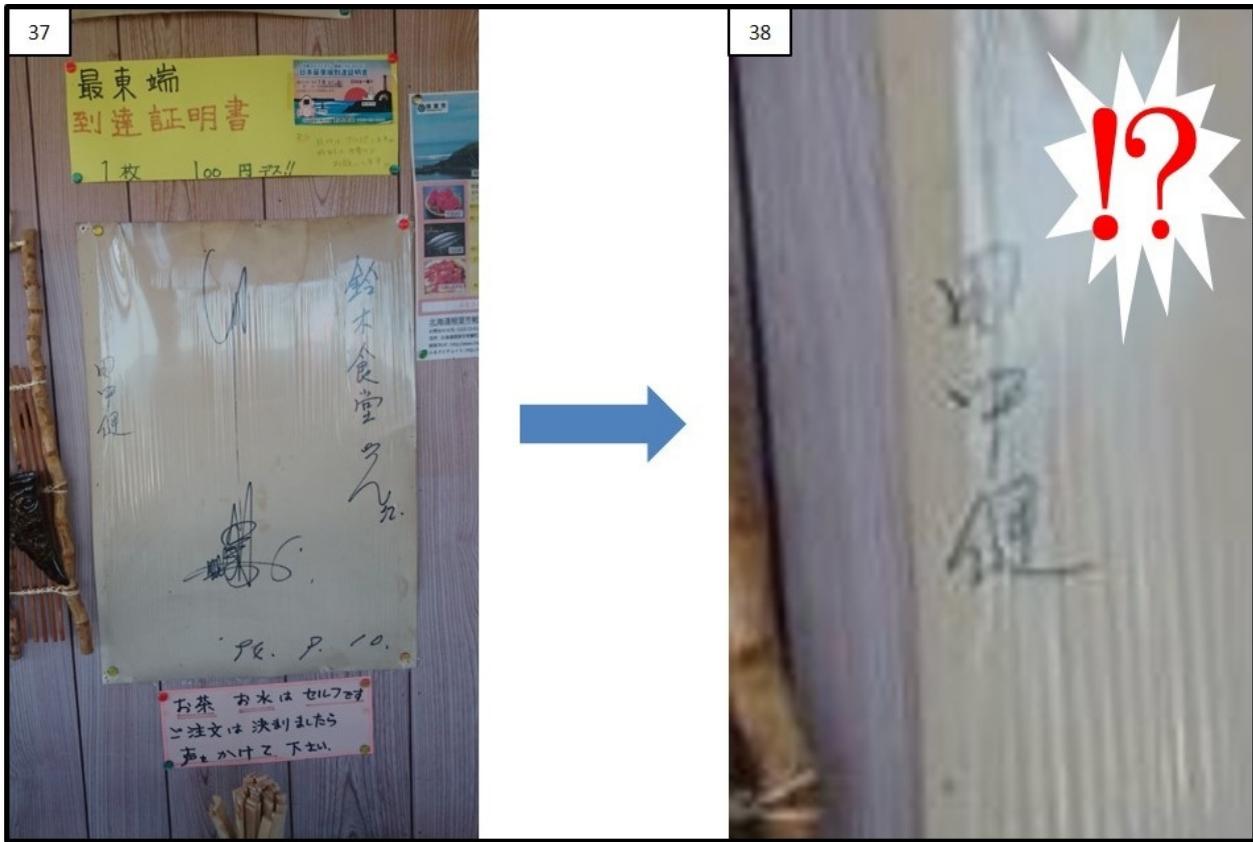


(画像35)

納沙布岬にある「鈴木食堂」

(画像36)

この時期に旬を迎える「花咲ガニ」を使用した花咲汁。ご当地名物を堪能していた我々はあるものを発見する。

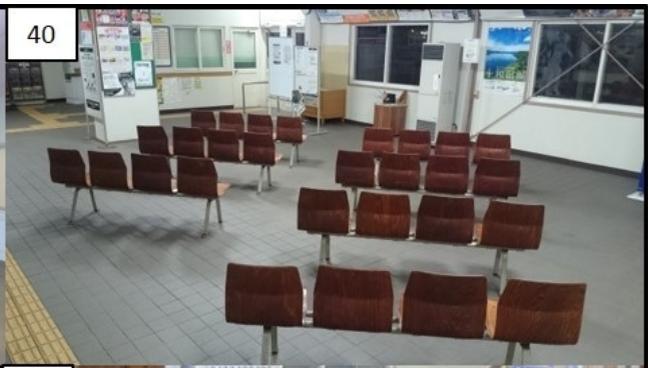


(画像37、38)

壁に張られるは日焼けしたサイン・・・。

なんと、84年版ゴジラの主人公「牧吾郎」を演じた田中健の直筆サインである。

店の方に尋ねたところ、あの田中健であるとの事。まさか、こんなところでゴジラ俳優のサインが
拝めるとは・・・。実際に足を運ぶからこそ出会える発見であり、聖地巡礼の本懐である。



(画像39)

根室駅ホーム。劇中では列車が停車している。電車の本数は少なく、入口は普段施錠されている模様。駅員さんに撮影したい旨を伝えれば快くホームへ入れて貰えた。

(画像40)

根室駅構内。切符売り場兼待合室。劇中とは椅子の向きが変わっている。

(画像41)

根室駅入り口。劇中では驚いた駅員が飛び出てくる。

(画像42)

ダイサク君が覗いていた窓も当時のまま。

(画像43)

根室駅の外観も当時と変わらない。

(画像44)

根室駅前。店の看板も当時からあまり変わっていない。



(画像45)

広小路2丁目商店街。

(画像46)

花咲町2丁目交差点。



(画像47)

国道35号線。画像33の付近。確証はないが、主人公の車とゴジラが並走するカットの雰囲気になかったので撮影。

(画像48)

国道310号線。根室駅南部のエリア。この巡礼で最も訪れたかった場所である。

根室の街を進むゴジラと主人公の車が同時に映るカットが撮影できる。

後部座席から動画を撮影したが、当時から街並みはほぼ変わっておらず、再現度の高い動画を撮影でき、達成感を感じた。



(画像49, 50)

根室市郊外の道路と東根室変電所。発電所襲撃前後の聖地は特定できていないが、似た雰囲気のある場所を限られて時間の中で搜索。

“帯津さんの後輩”氏の執念を感じる。

(画像51)

画像49周辺からの景色。平成モスラ1作目の雰囲気を感じたので撮影。
北海道らしい雄大な風景である。

以上が、この旅で我々が発見した聖地の全てである。
最後におまけ。



(画像52)

今回の旅の道中、北海道立近代美術館を訪問。旅のもうひとつの目的である『ゴジラ展』を観覧してきた。

(画像53, 54)

展示の最後にある特撮体験コーナー。FWゴジラとのクロマキー合成が楽しめる。周囲がゴジラとのツーショットを楽しむなか、怪獣映画的なカットに挑む硬派な“ぶなじめじ”&“帯津さんの後輩”。実は下半身は思いつきりしゃがんでいる。実際に視線の先にあるのはグリーンバック。ゴジラの顔の位置には視線を合わせ用にx印がある。

(画像55)

シンゴジラの大型モデル。この後ろには、撮影禁止のギニョール(撮影不可)が展示されていた。

今回の0泊3日の聖地巡礼旅。根室市の聖地は巡礼されることも少なく、なかなか貴重なカットを撮影できたのではないだろうか。今後も、今回の様な旅を敢行したいところである。



Report 3

『みえる！わかる！怪獣映画なんでもデータベース
～シン・ゴジラ 最速版～』

文：帯津さんの後輩(@fg54_d95)

第1章：『シン・ゴジラ』 熱線放射シーン数

"怖い" "恐ろしい" "ひどい" "むごい" "おぞましい"

これほどまでにネガティブな感情に支配される「熱線放射シーン」はあっただろうか。
超広範囲を一瞬で壊滅させる"煙状/炎状熱線"、近づくもの全てを迎撃し切り裂く"プラズマ熱線"...と、
映像的演出や設定からくる恐怖感は確かにあった。しかし、それが真の原因ではないと筆者は感じている。

過去ゴジラ作品において、熱線の強力さを表現するようなシーンは数多くある。
しかし、そのほとんどが敵怪獣・巨大メカに向けて放たれたものであり、ヒロイックな演出も相まって、
「カッコ良い」「爽快」といったポジティブな感情が湧き上がることが多かったのではないだろうか。
それがたとえ人に向けられたものであったとしても、戦う覚悟のある人々だった。

しかしゴジラ(第四形態)の熱線が焼き払ったのは、何の疑いもなく明日がくると信じていた人々である。
3.11のような大災害が目の前で発生し、多くの人々の命が抵抗することもできず消えていく。
自分にはどうすることもできず、その惨事をただただ見ていることしかできない。
そして、自分がもしその惨事の中にいたとするなら....

熱線の矛先が自分(観客)に向けられている。
それが『シン・ゴジラ』における熱線シーンのミソと言えるのではないだろうか。

本項ではそんな『シン・ゴジラ』の熱線シーンについてデータベース化を行った。
発射回数をカウントするだけでなく、発射部位および発射時間についてもまとめている。
本項にて熱線について名称を付けているが、非公式なものであり、筆者が独自に命名・呼称しているものであることをご留意いただきたい。

では、結果をご覧ください。

【表1：ゴジラ熱線放射シーン数一覧】※2017.05.02 データ修正

発射回数	発射部位	発射時の上映時間
1	口	01:04:46
2	背	01:05:55
3	口	01:06:04
(4)(※陸自 新無人偵察機システム による検証映像)	背	01:16:14
4(5)	背	01:41:51
5(6)	尾	01:42:20
6(7)	口	01:42:23
7(8)	口	01:45:38

表1の通り、『シン・ゴジラ』における熱線放射シーンは本編中に7回、記録映像で1回という結果となった。
従来のゴジラ作品に比べると数は少ないが、飛行物体を迎撃するために使用した"拡散放射熱線"、尾先端から発射する
"尾頭放射熱線"などバリエーションが豊富なため、少ないという印象は受けないのではないだろうか。

—最も注目して頂きたいのが発射回数"2"および"4"である—
~~飛行物体撃墜のために背部より発射した"拡散放射熱線"のデータだが、2度目は放射数(放射口)が増加していることが分かる—~~
~~放射口の増加は進化と考えることもできるが、あえてそうではないと言わせていただきたい—~~
⇒放射口の増加については確証を得られるデータを採取できなかったことから、記述を削除(2017.05.02)

熱線放射後にエネルギー切れによる休眠状態に移行したことから、拡散放射熱線の燃費の悪さをゴジラ体内の元素変換細胞膜が学習。休眠中に尾先端に熱線発射口を生成(劇中にて"ガッ"と尾先端が開くような描写あり)し、"尾頭放射熱線"を習得。ヤシオリ作戦時に放射数を増加させた"拡散放射熱線"による迎撃を試みるも、やはり燃費の悪さが目立つことから、省エネルギーで小回りの利く"尾頭放射熱線"に切り替えた...とすると、"尾頭放射熱線"こそ真なる進化の結果であると考えられないだろうか。

実際、劇中においてもヤシオリ作戦時はエネルギー切れを起こすことなく、断続的に熱線を使用できていた。

『シン・ゴジラ』におけるゴジラは2歩・3歩先を見据えた進化プランを立てていると予想される。

完全生物の異名は伊達ではないのである。

2017年にはゴジラがアニメ映画となることが決定している。

アニメで描かれる熱線シーンはどのようなものになるのだろうか...期待して待ちたい。

第2章：『シン・ゴジラ』登場飲食物

『シン・ゴジラ』には特撮映画の例に漏れず様々な飲食物が登場する。
本項ではそれらを可能な限り抽出し、データベース化した。

【表2：『シン・ゴジラ』登場飲食物一覧】

登場した飲食物
のり巻きおにぎり+お茶
自衛隊の炊き出しカレー
まずは君が落ち着け水(泉ちゃん水)
巨災対室製のまずい(?)コーヒー(?)
各種カップ麺(赤いきつね等...etc)
里見祐介内閣総理大臣臨時代理のラーメン (にんにくラーメンチャーシュー抜き...?)

筆者が最も注目しているのが「巨災対室製のまずい(?)コーヒー(?)」である。そもそもコーヒーかどうかも定かではないのだが、矢口が口を付けた際、とても苦い表情をしていたことが印象に強い。実は味が悪いわけではなく、矢口が猫舌で熱がただけかもしれない。結局、あの飲み物は何なんだろうか...

SNS上でたびたび話題になる「まずは君が落ち着け水」だが、劇中で使用されたのは「クリスタルガイザー(白キャップ)※ラベル無し」との説が濃厚。日本のスタンダードである「南アルプスの天然水」や「いろはす」でないところを見ると、海外からの支援物資なのだろうか...

里見臨時総理が食べるタイミングを逸してしまったラーメンは、『新世紀エヴァンゲリオン』で綾波レイが注文した「にんにくラーメンチャーシュー抜き」であるとの報告が、こちらもSNS上で多数挙がっている。庵野秀明総監督のお遊びだったのかもしれない。

『シン・ゴジラ』では、食べること・飲むことこそ、人が大きな結果を生むため重要な行為であり、食べ物・飲み物は人と人を結びつける力があることを我々に再認識させてくれる。

それゆえに、飲食せずとも活動可能なゴジラが、生物界において異常であり脅威であることが、強く伝わってくるのではないだろうか。

第3章：『シン・ゴジラ』コラボ一覧

2016年夏の『シン・ゴジラ旋風』を語る上で、避けて通れないものの一つが"コラボ"ではないだろうか。ジャンルを問わず様々な企業がゴジラとコラボし、数えきれないほどのゴジラグッズが生まれ、想像もしていなかったようなイベントがいくつも開催された。

各種コラボは人々の心にゴジラというキャラクターを思い起こさせる、大きな要因だったといえるだろう。

本項ではそんなコラボに焦点を当て、コラボ企業およびコラボ内容を可能な限り抽出し、データベース化した。

では、調査結果をご覧ください。

【表3：『シン・ゴジラ』コラボ一覧 ※2016/10/10時点】

通番	コラボ企業	種別	コラボ内容
1	ガイナックス・タツノプロ		■ゴジラ対エヴァンゲリオン 総合プロデュース
2	シンエイ動画	アニメ	■アニメ クレヨンシンちゃん 第901話「しんのすけ対シン・ゴジラだろ」
3	NEXCO 東日本	イベント	■シン・ゴジラ×海ほたる キャンペーン
4	株式会社読売巨人軍	イベント	■読売ジャイアンツ×シン・ゴジラ
5	神奈川県川崎市	イベント	■シン・ゴジラ、川崎に現る!スタンプラリー ■ゴジラ等身大 足型芝生アート ■シン・ゴジラ×第28回多摩川クラシコ コラボゲーム『多摩川クラシコ』 ■川崎市市民ミュージアム『映像のまち・かわさき』連携上映『ゴジラあらわる!』 ■「1/60サイズ シン・ゴジラ像」巡回設置 ■岡本太郎美術館 ゴジラシリーズ映画ポスター展 ■「シン・ゴジラ」川崎ロケパネル展 ■ゴジラの足跡を探そう!～川崎限定画像をGET～
6	海洋堂	イベント	■特別展 ゴジラ対エヴァンゲリオン ジオラマ大決戦
7	大江戸温泉物語	イベント	■箕面温泉スパガーデン シン・ゴジラ タイアップイベント
8	大田黒湯温泉・第二日の出湯	イベント	■ゴジラ湯
9	コンサドーレ事務所	イベント	■hank You Very マッチ第2弾 コンサドーレ20周年夏祭り
10	スターフライヤー	イベント	■スターフライヤー×シン・ゴジラ タイアップキャンペーン
11	日本ラグビーフットボール協会	イベント	■ジャパンラグビー トップリーグ2015-2016「ゴジラ・デイ」 ■ジャパンラグビー トップリーグ2016-2017「ゴジラ・デイ」
12	ゼルビア	イベント	■明治安田生命J2リーグ第23節『小田急マッチデー』 小田急×ゴジラキックオフセレモニー
13	東宝	イベント	■シン・ゴジラ フェア
14	セブーン・イレブン・ジャパン	グッズ	■ゴジラ対エヴァンゲリオン コラボグッズ
15	パンプレスト	グッズ	■一番くじ シン・ゴジラ～ゴジラ、ニッポン上陸!～
16	サンリオ	グッズ	■「ぐでたま」×「ゴジラ」コラボグッズ
17	バンダイ	グッズ	■バトルスピリッツ 怪獣王ノ咆哮
18	日本出版販売	グッズ	■シンゴジラ 書店に襲来キャンペーン
19	CROSSクラウドファンディング	グッズ	■シン・ゴジラ コラボグッズ
20	シュタイフ	グッズ	■シュタイフ×ゴジラ
21	ツバメノート	グッズ	■ゴジラコラボノート、付箋、メモ
22	フォーカート	グッズ	■ゴジラ浮世絵 コラボグッズ
23	栃木県産業労働観光部観光交流課	グッズ	■とちぎ県ロケ地マップ『シン・ゴジラ』特集号
24	IOSYQ	グッズ	■ゴジラ特製子タノ痛印
25	日本オート玩具	グッズ	■ゴジラマスク
26	KOTO-HAJIME	グッズ	■京瓦 ゴジラ 彫刻瓦、京瓦 ゴジラペーパーウェイト、京和傘 ゴジラ 番傘など
27	BEAMS JAPAN	アパレル	■ゴジラ コラボTシャツ、キャップ
28	メガハウス	アパレル	■ゴジラ コラボシューズ
29	A BATHING APE®	アパレル	■シン・ゴジラ コラボTシャツ
30	しまむら	アパレル	■ゴジラ コラボTシャツ
31	PUNK DRUNKERS	アパレル	■シン・ゴジラ コラボTシャツ
32	コスバ	アパレル	■シン・ゴジラ コラボTシャツ
33	LINE	ゲーム	■タワーライジング
34	ミクシィ	ゲーム	■モンスターストライク
35	GREE	ゲーム	■神獄のヴァルハラゲート ■ドラゴンコレクション ■スカイロック ■聖戦ケルベロス
36	Wright Flyer Studios	ゲーム	■消滅都市
37	スクウェア・エニックス	ゲーム	■乖離性ミリオンアーサー
38	グレンジ	ゲーム	■ポコロンダンジョンズ
39	セガホールディングス	ゲーム	■PhantasyStarOnline2
40	ソニー・インタラクティブエンタテインメント	ゲーム	■『シン・ゴジラ』スペシャルデモコンテンツ for PlayStation®VR
41	ビッグボーイ	グルメ	■ゴジラ ステーキ
42	セガゲームス B.B.スタジオ バンダイナムコエンターテインメント	ゲーム	■スーパーロボット大戦X-Ω
43	シーラック	グルメ	■かつおぶしチップス バリ勝男クン。×シン・ゴジラ ※コラボCMあり
44	おやつカンパニー	グルメ	■ゴジラバターメン ■ペーパースタードカイラーメン シン・ゴジラーメン(ブラックペッパー味) ■ペーパースタードカイラーメン シン・ゴジラーメン(ホットチリ味)
45	イオン	グルメ	■シン・ホットドック
46	ハタダ	グルメ	■シン・キントキノサブ ※コラボCMあり
47	リョーユーパン	グルメ	■ガオーショコラ

48	ロッテリア	グルメ	■シン・ゴジラセット ■シン・ゴジラバケツ
49	信濃屋食品	グルメ	■SHIN GODZILLA タリスカー ■GODZILLA ヘクターマクベス
50	バイナブルラーメン屋さん バババババイン	グルメ	■ゴゴゴゴジラ
51	ナムコ	テーマパーク	■シン・ゴジラ対ナンジャタウン
52	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	テーマパーク	■ゴジラ・ザ・リアル 4-D
53	青森県南津軽郡田舎館村	スポット	■シン・ゴジラ 田んぼアート
54	バルコ	スポット	■渋谷バルコ ザ・閉店セール ■バルコグランバザール ※コラボCMあり
55	サンシャインシティ	スポット	■ゴジラフット
56	タワーレコード	ビジュアル	■『在庫発見伝』コラボポスター
57	あんみつガラス	ビジュアル	■『あんみつ雨戸』コラボポスター ※コラボCMあり
58	西川リビング	ビジュアル	■『西川リビングのクール寝具 対 熱帯夜。』コラボポスター
59	近畿司法書士会連合会	ビジュアル	■『法律問題(トラブル)対司法書士』コラボポスター
60	大阪府	ビジュアル	■『大阪880万人訓練』コラボポスター
61	an	ビジュアル	■『シン・カメラマン』コラボポスター
62	北海道札幌市	ビジュアル	■『野菜摂取強化月間』コラボポスター
63	自衛隊大阪地方協力本部	ビジュアル	■『自衛官募集』コラボポスター
64	アウトドアステーション バンバン	ビジュアル	■『バンバン×シン・ゴジラ』コラボポスター
65	神奈川県警察	ビジュアル	■『虚構の息子』コラボポスター
66	大田区商店街連合会	ビジュアル	■『大田区対ゴジラ』コラボフラッグ
67	毎日放送	ビジュアル	■シン・ゴジラ トリックアート
68	東映アニメーション	ビジュアル	■映画『ONE PIECE FILM GOLD』コラボビジュアル(エンタミクス9月号)
69	タイゼン工業	CM	■コラボCM
70	葉山不動産	CM	■コラボCM
71	ヤマナシモバイル	CM	■コラボCM
72	自衛隊青森地方協力本部	CM	■コラボCM
73	いみずの湯	CM	■コラボCM
74	大島電気工事	CM	■コラボCM
75	百年住宅	CM	■コラボCM
76	シネマサンシャイン	CM	■コラボCM
77	八幡屋礒五郎	CM	■コラボCM
78	川商ハウス	CM	■コラボCM
79	静岡鑑定団	CM	■コラボCM
80	香川県宇多津町	CM	■コラボCM
81	京都みなみ会館	その他	■シンゴジラ プロマイド

表3の通り、2016年10月10日時点で80を超える数のコラボ企業があった。

各種コラボの中でも特に大きな話題になったのは「コラボポスター」ではないだろうか。

ゴジラ(第四形態)をあおりで写した、第二弾ティザーポスターを使用したコラボポスターが大量に作られた。上を向いた手の平に物を載せる...と、単純ではあるが、ゴジラの凶悪なビジュアルとのギャップが大きく、SNSを上で大いに話題となった。シュールでありながら、インパクト(宣伝効果)も大きい名コラボである。

【画像：『シン・ゴジラ』コラボポスター】



Report 4

『ゴジラvsヘヴィメタル EXTRA』

文：真田ゼウス(@zeussanada)

第1章：自意識と他意識のはざままで

ゴジラvsヘヴィメタル EXTRA

文：真田ゼウス

第1章：自意識と他意識のはざままで

ファンアイデンティティとは何か？問答を突き付けてきた『シン・ゴジラ』

『シン・ゴジラ』、皆さんどうでしたか？

もう今（これを書いた9月ごろ）となっては各方面で考察も論評もある程度されておりますし、本誌ではファンの皆さんによる素晴らしい感想集がバッチリ収録されているので私が『シン・ゴジラ』について語るべきことというのは、もう殆ど残っておりません。

誤解を招いてしまうとアレなので予め書いておきますが、私自身もちろん『シン・ゴジラ』を大変楽しめたこと、大方の予想を上回る大ヒットを記録したことをいちファンとして心から喜んでいるということには間違いありません。ただ、なんと申しましょうか。この一種の『シン・ゴジラ』ブレイクがどこか自分の気持ちを遠ざけてしまったのも、また事実であったのです。

まあぶっちゃけて言ってしまうと、ゴジラもメタルも「世間の皆が話題に挙げない」からこそ好きだったわけで、、、

身も蓋もないことですが、ひとことで言ってしまうとそういうことなのです。何か面白いことがあると、みんなにすぐにでも共有して楽しみたいタイプとどこかしら勿体ぶって独り、もしくは限られた数名で楽しんでおきたいタイプがあるならば、間違いなく自分は後者なのです。（「発声可能上映」なんかは個人的にはたぶん行けない・・・）

また、極端な表現の仕方をするならば、原則として怪獣映画もヘヴィメタルもいうなれば一般受けとは少し縁遠い「ゲテモノ」ジャンルの側面があるわけで、そのファンであることで、万人には話が通じにくいモノを比較的知っていることに、自分としてはある種の快感にも似た感覚を味わっていたということ、そしてなによりも、「なんと自分はひねくれたオタクなのだろう」ということを改めて突き付けてきたのが『シン・ゴジラ』という作品とそれを取り巻くブレイク現象だったといえます。

ヘヴィメタルが好きな大きな理由もそこにありました。極端な例を挙げましょう。もしまかり間違っても、ヘヴィメタルを周りの人たちが一斉に聴きだしたとして、周りの同僚や電車に同乗した女子高生が

「ねえ、NAPALM DEATH（ナパーム・デス）※1の新譜聴いた？最高じゃない？」
「マジでミッチ・ハリス※2)のギターイケてるわ」

なんてことを話し出した日にや、ボクあファンを辞めてしまうでしょう。

(まずそんな日は来ませんが)

余談はここまでとして、本項は前号で筆者が怪獣映画などの特撮映画作品とヘヴィメタルバンドやそれらの音楽性の共通点をあぶりだしていく企画「ゴジラvsヘヴィメタル」のスピノフ的な内容になります。

具体的には、『シン・ゴジラ』という作品の中にヘヴィメタルという音楽の含む、なんらかの要素がなかったか？を検証していきます。

この検証を行う上で大変な参考になったのは、映画評論家の町山智浩さんがwebラジオ形式で発表した、シンゴジ評でした。

[町山智浩の映画ムダ話35](#) (有料DLコンテンツです)

もしご興味がある方は、本項を読んだ前後に町山氏の解説を聴けばまたシンゴジに関して別の視点が生まれてくるかもしれません。などという身勝手な願望を抱きつつ、筆を進めていくことといたしましょう！

※1)ヘヴィメタルに大別される中でも最も激しいジャンル(デスメタル・グラインドコア)

の代表格とも呼ばれる、イギリス出身のエクストリーム・メタルバンド。

「1秒で終わる曲」を持つトリビアがあるバンドとして地上波TV番組で取り上げられたこともある。

※2)Napalm Deathのギタリスト。

第2章：矢口とゴジラ 異なる両者の「メタル成分」

第2章：矢口とゴジラ 異なる両者の「メタル成分」

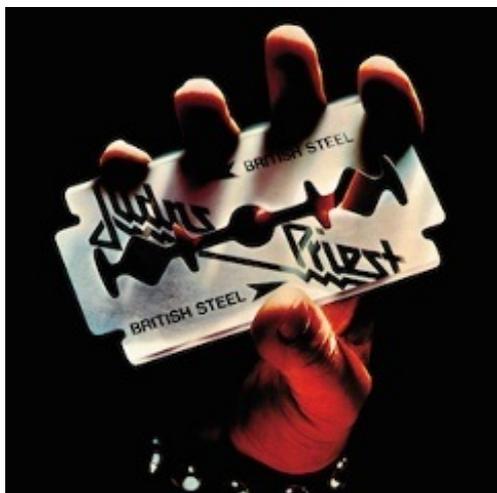
SideA (A面) 指導者・アジテーターとしての
矢口蘭堂側から見たヘヴィメタル的な側面

ユナイテッド、ユナイテッド、*団結せよ*
そうすれば負けることはない
ユナイテッド、ユナイテッド、*団結せよ*
俺たちはひとつだ
だから戦い続けろ、決してあきらめるな
さあ堂々と立て、俺たちは勝利する

Judas Priest “United” (British Steel収録) より

とにかく無駄を省き、ソリッドさを追求したストイックさ

Judas Priestの“**British Steel**”という作品



イギリスが生んだヘヴィメタルの象徴とも言うべきバンド
Judas Priestが1980年に発表した6枚目となるアルバム

"British Steel"は、彼らの代表作のひとつにも数えられており、曖昧模糊としたヘヴィメタルというジャンルの音楽性について、「これがヘヴィメタルだ」という定義づけにも一役を買っている。

Judas Priestが後世のメタル・シーンに与えた影響や特撮作品との関連性については、前号での特集記事に記したので ※『ゴジラVSヘヴィメタル「異形」ジャンルの異種格闘技戦』参照 本項では詳しく触れないこととする。その代わりにこのアルバム作品と、『シン・ゴジラ』が共通して持っている「無駄をそぎ落としたソリッドさ」について説明していきたいと思う。

『シン・ゴジラ』がここまでのヒットを打ち出した要因のひとつとして作品全体の構成や質感が、無駄のないソリッドなものだったということが考えられる。具体的には、主人公の矢口をはじめとした人間側が、ゴジラ災害に対し、どういう手立てを打っていくかというほぼ1点突破で120分という尺の物語の中を進行させていくという点である。これは庵野秀明総監督の手腕によるところが大きいと思うが、登場人物のパーソナリティや心情描写を掘り下げることなく、恋愛要素などの、大衆向けの邦画であれば組み込んでもおかしくない要素を一切排除していながらも、緻密に計算された演出法により、観る者を退屈させることはなかったと言えないだろうか。

一方の"British Steel"も、これまでのJudas Priestが武器としていたツインギターによるリードパートや、様式美的な曲展開、メロディアスなフレーズといった所謂これまでのハードロック・メタルにおいて「おいしい」要素を意図的に排除した作風となった。アルバム全体を支配するのは、まるで製鉄所で工夫が鉄槌を打ち付ける様子を連想させるようなシンプルかつ硬質なギター・リフの応酬であり、軍隊が整列前進してこちらへ向かってくるような重厚でグルーヴィな、重心の低いリズムであった。これらの音楽的要素に、上記の"United"のような聴く者たちを鼓舞するような歌詞が織り交ざることにより、作品全体にシリアスさとソリッドさ、威厳のようなものを感じ取ることができるようになった。本作以降、多くのヘヴィメタルバンドがこの手法を取り入れるようになり、ヘヴィメタルというジャンルが持つ方向性を大きく位置付けることになったのである。

『シン・ゴジラ』の実質的主人公である矢口蘭堂は雄弁だが、自身のことは殆ど語らない。その代わりに、直面した危機や問題に対しある種の超人的とも言える判断力と意思、人心掌握術をもって多くの協力者を巻き込み、プロジェクトを成功へと導いていく。彼のストイックさとカリスマ性、そして時折発した、聴衆を勇気づける発言の数々はどこかしら、Judas Priestのロブ・ハルフォードのようなボーカリスト、バンドにおけるフロントマンにどこか通じるものを感じる。

緻密な計算に裏打ちされたシンプルさが作品全体に硬質なトーンをもたらし、尚且つエンターテインメント性を担保する。これが両作品の共通点のひとつである。

SideB (B面) 自意識を暴走増幅させた

「ゴジラ=牧教授」側から見たヘヴィメタル的な側面

俺はこの世を超越した存在
子供は無数、続々と増える俺の皮膚にくっついてくる
最愛の胞子ってとこだ
そいつらを爪で歯で拳で引き剥がす
神にそむく聖人の手に触れ俺の心が導く所に続け
貫く痛みの中世間を知らないヤツこそが危険を知らせてくれる
未来が見える、流血の未来が
傷が四六時中 疼くようになった
ウィルスみたいに、
俺を殺そうたってもうダメだ
地下に潜り、肝炎のように感染を広げてるんだ
姿を現したら---もうこの勢力を作り変えることはできないぜ
また新しいバグが現れたんだ
この社会構造にメイン電源をズタズタにするバグだ
0と1が総て---俺のプログラムを実行してみろ

Slipknot "New Abortion" ("IOWA"収録より)

ありったけの憤怒と暴力をミキシングした

Slipknotの"IOWA"という作品



現代のエクストリーム・ミュージックシーンにおいて、Slipknotの存在はなくてはならないものであり、メタルそのものを知らなくてもこのバンドの名前を知っているという人も結構多い。

そのSlipknotは1999年にデビューしたアメリカはアイオワ州出身のバンドであり、ボーカル、ギターx2、ベース、ドラムという一般的な編成に加え、DJ、パーカッションx2、サンプラーというメンバーを加えた9人組である。

(現在はメンバー変遷を経てやや流動的だが、基本的には上記)

彼らを説明するにはもう一つ大きな、ビジュアル面でのポイントがあり、全員が禍々しい覆面を着用し、素顔を隠していることもデビュー当時話題になった。奇抜な楽器編成とビジュアルで奏でられる音楽性はこれまでにないほどの衝撃をもって、当時のラウド・ロックファンを驚愕させたのである。



(※2001年"IOWA"発表当時のバンドショット)

そんな彼らが2001年にリリースした第2作アルバム"IOWA"はこれまで発表された作品の中でも最もブルータル(残忍)で激しい作風であり、最高傑作の呼び声も高い名盤として知られている。

前作のミクスチャー的な要素に加え、ブラックメタルやデスメタルなどの暴虐的なエッセンスを多分に含ませ、歌詞や曲名もとにかく憎悪と暴力で塗り固めた。本作を一言で表現するならば、「ネガティブ全部乗せ」。

例えば曲名。

"People=Shit" (人間はクソ)

"I am Hated" (俺は憎まれてる)

"Everything End" (全ての終わり) など、これでもかと言うほどの「暴言」の数々は当時高校生だった筆者を含むキッズたちに相当なショックと熱狂をもたらした。しかしただ暴力的と言うわけではなく、楽器陣とシンガーは相当な実力者であり、ともすれば単にカオティックになってしまいがちな音楽性を、一種の美しさとも取れる構成力と演奏力で、説得力を十分に持った楽曲へと見事にパッケージングしていた。

ここまで読んで、読者の方の中にはこれとシンゴジのどこに共通点があるのか？と疑問に感じた方がいるのではないかと思います。

先に結論から出してしまうと、これらSlipknotのIOWAが持つ「憎しみ」「暴力」といったネガティブ要素は、本作のゴジラ=牧教授が一手に引き受ける形で共有しているものの、物語上ではフォーカスされることなく、ゴジラ同様「凍結」され閉じ込められてしまっている。

核とそれを産み出した人間への憎悪を、ゴジラという形で差し向けた(とされる)

牧教授の行動や思惑は矢口たちにより想像されるものの、
「彼はいったい何を好きにしたんだ？」という感じで、踏み込まれることはなかった。

町山智浩氏は前述のwebコンテンツによるシンゴジ評で、
「何故冒頭シーンのポートに、宮沢賢治の『春と修羅』が残されていたのか」という謎解きを、宮沢賢治のパーソナリティと『春と修羅』の執筆背景を基に「暴走する自意識」をゴジラに集約させたという考察を展開している。
ここで言う「自意識の暴走」とは何だろうか。ここからは筆者の経験も含めた見解になるが自身のことを考えたり意識したりする割合が大きくなるほど、ネガティブな精神や他人に危害を加えようとする意識を芽生えさせやすいという考え方がしっくりこないだろうか。庵野秀明監督は過去、「エヴァ」を筆頭とした自身の作品の多くにこの表現を用いていた。が故に、精神の幼いオタクたちの支持を得ることに成功した。

ところがどうだろう、「シン・ゴジラ」にはそういった鬱屈した心理描写やウジウジした表現といったものは見られない。ネガティブな要素として認められるのは徹底したゴジラによる破壊描写のみである。そういったウジウジ要素がなかったからこそ、多くの一般層からの支持を得ることができたと言った町山氏は言う。確かに1作目の『ゴジラ』の芹沢博士は今の感覚で表現すると「非リア充」であり、主人公で「リア充」の尾形とは違い、ゴジラと海中で共に没して一体となることしかできなかったというような暗い要素は今回オミットされていたように思える。しかし往々にして怪獣や怪人のメタファーとして代表的なのは「怒り」や「憎しみ」だったりするわけでそこへフォーカスすることで観衆に怪獣たち、異形の者への慈しみが生まれるのであり、そういう要素を筆者が好んでいるのもまた事実なのである。

そこへのフォーカスがシンゴジにはなかった。しかしあのゴジラはおそらく、人の意思をもって生まれ、行動し、東京を廃墟と化したのであろう。「自意識の暴走」は間違いなく牧教授＝ゴジラに内包されていた。ゴジラが一気に東京の街を壊滅させたあの熱線放射シーンを観たとき、筆者は最初に「IOWA」のCDをプレイヤーにかけて聴いた時の戦慄と興奮に近いものを感じた。圧倒的暴力にただただ翻弄されたあの感覚である。焦点の定まらない眼で東京を蹂躪するゴジラと、表情を覆面で隠しながら演奏するSlipknotに、どこか不気味な印象を感じた部分もあるかもしれない。

「私は好きにした。君らも好きにしろ」
牧教授は破壊と同時に、希望と呼べるものも同時に人間へ提示した。あくまで推測だが、牧教授が奪われた愛する者も人間である。これは人類への愛憎に近いモノを彼は抱いていたのではないか。

Slipknotの「IOWA」に収録されている最後の曲は、彼らの地元の名前でもありタイトルトラックでもある「IOWA」だ。その歌詞の一節を少し紹介しよう。

お前は俺のもの、これからもずっと俺のものだ
バラバラにすることも、元通りにすることだってできる
おれはただお前の総てを手に入れたいと願ひ続けたい
お前は俺のものなんだ
殺してやる これからも愛し続けるために
Slipknot "IOWA" ("IOWA"収録) より

本人たちによれば「何もなく退屈だった」地元アイオワ。
そこでの鬱屈した生活が彼らの自意識を暴走させ、Slipknotの世界観を創った。
しかしこの歌詞を読めば、ここからもどことなく愛憎を感じることができる。

前号の記事で、「ヘヴィメタルとは、破壊衝動のアウトソーシングである」ということを書いた。「自意識の暴走」を「みんな死んでしまえ」的な破壊表現に変換することが怪獣映画やロボットアニメの装置的な役割なのだったら、同様にヘヴィメタルにも十分その役割が装備されているのだ。

ヘヴィメタルの世界観や表現の根幹となるものには色々な側面があり、矢口蘭堂が示したカリスマ性や統率力といった「威厳」、人々を鼓舞する「アジテーション」もヘヴィメタル的要素と言えるし、牧教授やゴジラの中に押し込まれていた、醜い「自意識の暴走」、それにより誘発された「暴力性」といったものも、ヘヴィメタルという音楽によって表現が可能なのである。

怪獣映画もヘヴィメタルも、一枚皮をめくればいろんなものが見えてくる（気がする）。この夏、『シン・ゴジラ』に触れた観客の皆さんは、その先にそれぞれ何を見たのだろうか。

おわり

あとがき

シン・ゴジラのロケ地ネタは早くも3番煎じ感があり、
どうしたものかと思いましたが、自分なりにやってみれば結構
それらしいものが出来たかなと。

今回の記事の為に、まさかの根室訪問もできたわけで、
これを機に、次回もどこか聖地を巡礼出来ればと思います。
最後になりましたが、寄稿して下さった怪獣ファンの皆様と
友人のyugo氏とjhon氏には感謝の一言に尽きます。
ご協力頂きありがとうございました。

《ぶなしめじ》

感想文を提供していただいた皆様は、
言われなくても自分のできる事を黙々とやって、
都合悪くなったら降りていいですよと言っても誰一人降りず、
締切に追い詰められても諦めず、こちらの想像を超えたものを作っていただきました。
矢口や志村が感じたような"一体感"を疑似体験できました。
「...マジ、感動っす！」

最近、公私ともに目がまわるような日々でしたが、
巨災対メンバーの姿やセリフを頭に浮かべることで、
諦めず、最後までやりきることができました。
『シン・ゴジラ』は生きる活力を与えてくれる映画だと思います。
「まだまだやれる。そう感じるよ」
《帯津さんの後輩》

今回は感想集で多くの方にご協力いただいたのですが、
お陰様で非常に色彩もバラエティも豊かな号になりました。
この場を借りてお礼申し上げます。
自分の記事に関しては、あれだけ言い足りないと書いておきながら、
もう息も絶え絶えのネタ切れ感ありでございます。
この場を借りてお詫び申し上げます。
《真田ゼウス》

『レクシズマーレポート』

Vol.2 Oct.2016

《特集》

『シン・ゴジラ』大ヒット記念号

<http://p.booklog.jp/book/110033>

Special Thanks to

感想集参加者の方々

株式会社キャスト

京都みなみ会館

情報拡散してくださった皆様

©2016 R.E.X.I.S.M.R inc.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110033>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/110033>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ